

## II 調査結果の概要

### 1 総括

#### (1) 調査の概要

令和2年度の県民歯科保健実態調査（成人）（以下、R02調査）の有効被調査者数は、5,845人であり、予定の6,000人に対し97%の実施率となった。なお、過去3回の調査における有効被調査者数は、平成28年度と同調査（以下、H28調査）では4,475人、平成23年度と同調査（以下、H23調査）では3,497人、平成18年度の神奈川県成人歯科保健実態調査（以下、H18調査）では4,830人であった。

#### (2) 口腔診査の結果

##### ○歯の状況

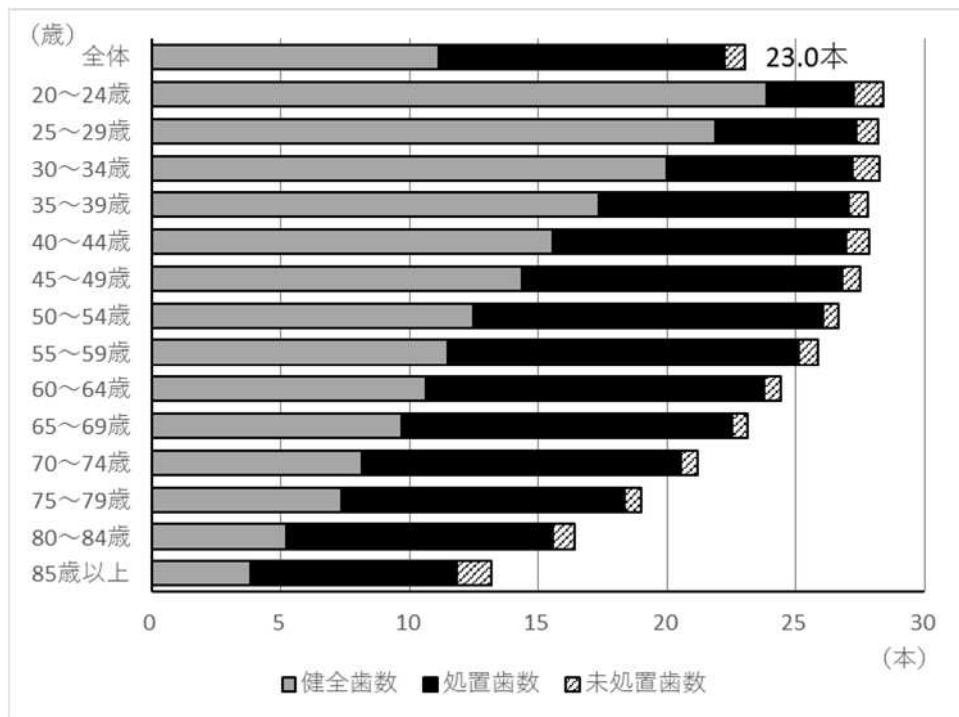
##### <歯の本数について>

全体における1人平均現在歯数は23.0本（内訳：健全歯数11.2本、処置歯数11.1本、未処置歯数0.8本）であり、年齢が高くなるにつれ緩やかに減少した。1人平均喪失歯数は5.8本であり、H28調査（3.9本）と比較し1.9本増加した。

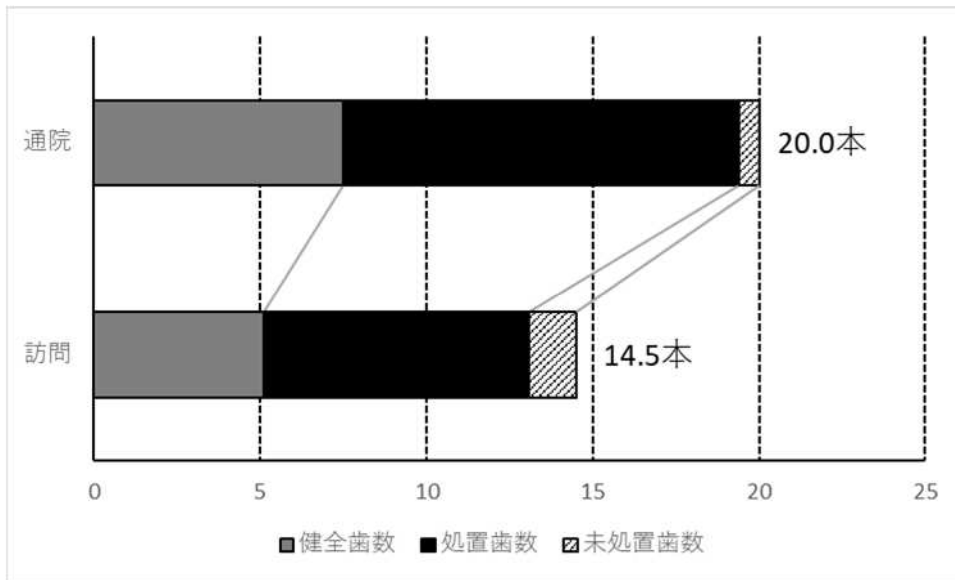
65歳以上を対象者として通院患者と訪問患者で比較すると、1人平均現在歯数はそれぞれ20.0本、14.5本（内訳：健全歯数7.5本、5.1本、処置歯数11.9本、8.0本、未処置歯数0.6本、1.4本）であり、健全歯数と処置歯数は通院患者の方が多く、未処置歯数は訪問患者の方が多かった。1人平均喪失歯数は通院患者が8.7本に対し、訪問患者が14.4本であった。

20本以上の歯を有する者の割合は、全体で77.4%、そのうち8020達成者（75～84歳で20本以上の歯を有する者の割合）は、75～79歳で56.6%、80～84歳で43.8%であった。

通院患者と訪問患者で比較をすると、20本以上の歯を有する者の割合は、通院患者で81.9%、訪問患者で48.6%であった。8020達成者は、通院患者の75～79歳で57.6%、80～84歳で44.7%、訪問患者の75～79歳で51.5%、80～84歳で32.3%と、いずれも通院患者の方が多かった。



年齢階級別1人平均現在歯数(令和2年度)



65歳以上の通院・訪問別1人平均現在歯数(令和2年度)

#### <う蝕について>

全体としては、ややう蝕の軽症化がうかがえる結果であった。

う蝕経験者(未処置歯または処置歯、あるいはその両方を持つ者)の割合は、全体の約96.4%であり、H28調査からは減少したものの、過去の調査結果と比較すると横ばい傾向にあった。う蝕がない者(未処置歯及び処置歯がない者)の割合は全年齢で3.6%であり、20歳代で最も多かった。未処置歯を有する者は30歳代で最も多く、次いで80歳以上、20歳代、40歳代と続き、50歳代から70歳代までは横ばいで推移していた。また、男女別でみると、未処置歯数は男性の方がやや多く、喪失歯数は男女ほぼ同数であった。補綴完了者は69.6%とH28調査(71.1%)よりは少なかったが、過去の調査結果と比較すると良好な状態を維持している。通院患者と訪問患者で比較をすると、未処置歯数、喪失歯数ともに訪問患者の方が多かった。

#### ○歯周組織の状況

##### <歯周病について>

全体では62.9%が歯肉出血し、62.8%が歯周ポケットを有しており、年齢が上がるにつれて、その割合は増加している。また、男女別でみると、男性の方が歯肉出血・歯周ポケットともに有病率が高い傾向にあった。

### (3) 全国(平成28年度歯科疾患実態調査)値との比較

神奈川県における1人平均現在歯数は、H28調査では24.7本、R02調査では23.0本と、やや減少傾向であるが、高齢者の被調査者数の増加と訪問診療を対象に加えたことを考慮する必要がある。平成28年度の全国値(22.9本)との比較ではほぼ同数であった。一方、20~24歳と85歳以上における未処置歯数は、全国値よりも多い結果となった。

### (4) 県民へのアンケートより

#### <健康観について・運動について>

全体として約3分の2の者が自身について「健康である(よい・まあよい)」と回答している

が、70歳代を越えた頃から、「あまりよくない・よくない」と回答する者が増加する傾向にあった。また、男女別でみると、男性は女性に比べて健康であると認識している者が多かった。

運動を「いつもしている」者は20歳代から40歳代まで減少したが、50歳代から増加に転じ、70歳代でピークとなり、80歳以上では減少した。逆に、「ほとんどしない」者は50歳代から減少し、70歳代で最も少ないものの、80歳以上で最も多かった。全年齢では7割以上の者が「いつもしている・ときどきしている」と回答した。

#### <歯科以外の病気について>

H28調査では、歯科を受診している者のうち70歳代では半数以上の52.2%がなんらかの疾患の既往があったが、コロナ禍にあるR02調査では、60歳代で11.2%、70歳代で17.6%、80歳以上でも23.3%に留まっていた。全身疾患を有する高齢者が歯科受診を控えたことによるものと考えられる。

#### <喫煙について>

全体の喫煙者率は、H28調査では26.1%であったが、R02調査では21.9%と大きく減少した。全ての年代において減少がみられ、特に80歳以上で顕著に減少した。男女別でみると、男性で37.7%、女性で12.3%であり、男性の方が約3倍、喫煙者が多い状況であった。

#### <食べる時の咬合（噛み合せ）の状態>

20歳代では約95%以上の者が「何でも噛んで食べることができる」と回答しているが、年齢が上がるにつれてその割合は減少していき、70歳代で7割を切り、80歳以上では45.7%となった。

#### <嚥下（飲み込み）の状態>

食べ物や飲み物が飲み込みにくく感じたり、食事中にむせたりすることが「ときどきある」と感じている者は、40歳代から増加し、80歳以上で35.8%と最も多かった。「頻繁にある」と回答した者は70歳代から増加し、80歳で3.4%であった。

#### <顎関節の症状について>

男性では年齢が上がるにつれて顎関節の症状が「ある・ときどきある」者の割合が減少するのに対し、女性では30歳代が40.5%とピークとなり、以降は減少した。男女別でみると、20歳代を除き男性に比べて女性の方が顎関節の症状がある者が多かった。

#### <歯科医院の受診理由について>

歯科医院の受診理由としては、「定期的に検診や歯のクリーニングを受けている」が48.5%と最も高く、次いで「口の中にむし歯など気になる場所が見つかったから」、「歯や歯ぐきが痛くて我慢ができなかったから」の順であった。コロナ禍にあつて定期健診や歯の清掃による受診が抑制されることが予想されたが、H28調査と同様の傾向であった。

#### <歯科受診へのためらいについて>

歯科受診へのためらいがあると回答した者は全体の11.9%であり、その理由としては「痛みなどへの恐怖」が最も高く、次いで「時間的な負担」、「経済的な負担」の順であった。男女別でみると、男性に比べて女性の方が歯科受診をためらう傾向にあった。H28調査と比較すると歯科受診をためらう者の割合は減少した。

#### <刷牙習慣について>

歯みがきの習慣については毎日みがく者で、1日に2回みがく者が45.9%と最も高く、次いで3回以上（38.3%）、1回（8.8%）の順であった。男女別でみると、1日に3回以上みがく習慣がある者は男性で25.9%、女性で45.4%であった。また、歯間清掃用具を「ほぼ毎日使う・ときどき使う」者は全体で70.6%であり、男女別でみると、男性で62.7%、女性で75.3%であつ

た。刷掃習慣、口腔衛生の習慣については、男性に比べて女性の方が意識が高い傾向にあった。

#### <歯や歯ぐきの健康について>

歯や歯ぐきの健康については、「かかりつけ歯科医を決めている」者が70.4%と最も高く、次いで「食事の後、歯をみがいたり、口をすすいだりしている」者が67.2%、「歯石を取ってもらうようにしている」「歯科検診や歯科健康診査をうけるようにしている」がそれぞれ54.8%、54.1%であった。H28調査では2番目であった「かかりつけ歯科医を決めている」が最も高くなっており、プロフェッショナルケアへの意識が高まってきているものと考えられる。また、その他の項目についても割合が高くなっており、歯や歯ぐきの健康への意識が高まっていることが示された。

#### <歯周病と関係があると思う全身疾患について>

「糖尿病」への認識が53.5%と最も高く、次いで「心臓病」31.3%、「肺炎」25.1%、「脳血管障害」24.0%の順であった。いずれも50歳代で最も認識が高く、全身と口腔の健康への意識が50歳代で最も高くなることがうかがえた。また、「妊娠への影響」については全体における認識は13.1%であったのに対して、20、30、40歳代の女性では31.7%、35.0%、26.7%と認識が高いことが示された。

#### <歯科保健に関する言葉について>

歯周病に関する言葉の意味を知っている者の割合は、「歯石」が66.0%と最も高く、次いで「歯肉炎」57.6%、「歯垢」55.4%、「歯周ポケット」52.4%の順であった。う蝕予防に関する言葉の意味を知っている者の割合は、「初期むし歯」37.6%、「キシリトール」32.1%、「フッ化物洗口」16.3%の順であった。健康啓発に関する言葉の意味を知っている者の割合は、「8020運動」が34.3%と最も高く、次いで「未病」20.7%、「健口体操」11.2%、「オーラルフレイル」8.7%、「健康日本21」7.0%、の順であった。「オーラルフレイル」はH28調査では3.3%であったことから、認知度が高まってきていると言える。

## (5) 口腔保健状況と口腔保健への意識及び保健行動との関係

### ア 現在歯数に影響を与える要因

50歳以上を対象として、「主観的健康観が高い者」、「喫煙習慣のない者」で有意に現在歯数が多かった。また、「健康のための運動をしている者」、「奥歯の咬合、咬合の状態、嚥下時の状況が良好な者」、「1年以内に定期歯科検診を受けた者」、「歯みがき指導を受けたことがある者」、「歯石除去を受けたことがある者」、「歯周病の治療を受けたことがある者」についても有意に現在歯数が多く、それぞれの項目と年齢との有意な関連も認められた。

治療を受けたことがある病気に関しては、「糖尿病」と「心臓病」（40歳以上を対象）、「肺炎」と「脳血管障害（脳卒中等）」（65歳以上を対象）のいずれも、治療を受けたことがない者で有意に現在歯数が多かった。

「刷掃習慣」については「1日の歯みがき回数が多い」、「歯間清掃用具を使用する頻度が高い」者ほど現在歯数が有意に多かった。「歯科健診や歯科健康診査を受ける」、「歯石を取ってもらう」、「かかりつけ歯科医を決めている」、「食事の後、歯をみがいたり、口をすすいだりする」、「1本ずつ丁寧にみがく（現在歯数1本以上の者を対象）」、「バランスのとれた食事を心がける」ということを意識し、「歯や歯ぐきの健康について普段から意識（注意）している」者で有意に現在歯数が多かった（50歳以上を対象）。

### イ 歯肉出血（分析対象者：50歳未満で現在歯数1本以上の者）・歯周ポケット（分析対象者：

## 50歳以上で現在歯数1本以上の者）に関わる要因

「喫煙習慣がある」者で有意に歯肉出血が多く、歯肉出血がある者は「噛んで食べること」が有意に不良であった。この1年間に「歯みがき指導」、「歯周病の治療」を受けた者で有意に歯周ポケットが深く、「歯科受診へのためらい」、「歯みがき回数」、「歯間清掃用具の使用」と歯周ポケットの間に有意な関連が認められた。「1本ずつ丁寧にみがく」ことを意識し、「歯や歯ぐきの健康に普段から意識（注意）している」者は有意に歯周ポケットが浅かった。歯科保健に関する知識量と歯周ポケットの間に、有意な相関が認められた。

歯周ポケットの重症度については、主観的健康観との間に有意な関連が認められた。「糖尿病」と「心臓病」の治療を受けたことがある者、「喫煙習慣のある」者で有意に歯周ポケットの重症度が高かった。歯周ポケットの重症度と「咬合や咀嚼の状況」との間に有意な関連を認め、この1年間に「歯科検診を受けなかった」、「集団歯科検診を受けた」、「歯みがき指導を受けた」、「歯周病の治療を受けた」者で有意に歯周ポケットの重症度が高かった。また、「歯科受診へのためらい」、「歯みがき回数」、「歯間清掃用具の使用」と歯周ポケットの重症度との間に有意な関連が認められ、「歯や歯ぐきへの意識」をしていない者で有意に歯周ポケットの重症度が高かった。歯周ポケットの重症度が高い者ほど、「歯周病と関係があると思う全身疾患」を知らなかった。歯科保健に関する知識量と歯周ポケットの重症度との間に、有意な相関が認められた。

## （6）口腔保健状況と要介護度との関係

65歳以上の者を対象に1人平均現在歯数と要介護度との関連について検討したところ、75歳以上の者においては要介護度が高い者は有意に現在歯数が少なかった。一方、歯周病の重症度との間には有意な関連は認められなかった。

## （7）オーラルフレイルのスクリーニングの結果

50歳以上の者を対象に、オーラルフレイルのスクリーニング問診票から得られたオーラルフレイルの危険性を、合計の点数が0～2点で「低い」、3点で「あり」、4点以上で「高い」とし、現在歯数との関連をみたところ、オーラルフレイルの危険性が高いほど、年齢階級にかかわらず有意に現在歯数が少ない結果であった。全ての年齢階級で「低い」者は1人平均現在歯数20本以上を有し、高齢者では「高い」者は20本を下回った。50歳未満の者を対象に、歯肉出血との関連をみたところ、オーラルフレイルの危険性と歯肉出血との有意な関連が認められた。

## （8）まとめ

R02調査における県民の口腔内の健康状態は、H18調査、H23調査及びH28調査と比較すると、80歳以上の1人平均現在歯数は20本以下であることは変わらず、H28調査より減少していた。R02調査から被調査者に訪問診療を受けた者を加え、70歳以上の被調査者数が大幅に増加した影響がうかがえるものの、通院患者のみの1人平均現在歯数も全体で24.0本（訪問患者のみは17.0本）と減少傾向であったが、訪問診療を受けた者については多い傾向であった。健全歯数は20～49歳では増加傾向にあった。1人平均未処置歯数は全ての年齢で減少傾向にあった。処置完了者の割合は増加し、未処置歯がある者、う蝕のない者は減少した。う蝕有病歯率は、20～49歳では減少傾向を示し、特に20～39歳においてはH18年から比較すると顕著に減少した。

1人平均未処置歯数は訪問患者で多いものの、全体ではやや減少しており、未処置歯数の内訳においても全体的にう蝕の軽症化がうかがえた。喪失歯を有する者の割合は横ばい傾向であるものの、H28調査からは増加、H18・23調査からは減少していた。1人平均喪失歯数は、訪問診療を受けた者で著しく多かった。20本以上の歯を有する者の割合は69歳までは増加傾向にあるが、75歳以降でH28調査より減少した。訪問診療を受けた者で著しく少なかった。全国値（H28歯科疾患実態調査）と比較すると、本県では1人平均現在歯数はほぼ同等であり、1人平均処置歯数は多かった。

現在歯数、歯肉出血・歯周ポケットと有意な関連がある喫煙者率については、過去の調査と比較すると、減少し、また、歯科受診をためらう者も減少していた。歯科を受診した理由や、この1年間に受診した内容も、歯科検診が最も多かった。歯周病の予防にはセルフケアとプロフェッショナルケアの両方が重要であることから、県民の口腔の健康を向上する上で、かかりつけ歯科医をもつことをより一層推進すべきと言える。

歯科保健に関する言葉の認識については、H28調査からみると、高齢者が歯科診療所や介護関連で知ることができる「健口体操」及び「オーラルフレイル」を除き、認知度が低下したが、高年齢層の被調査者数の増加によるものと考えられる。今後、高年齢層へも周知が進んでいくと予想されるが、より一層の周知を図ることが望まれる。課題としては、訪問診療を受けている者の口腔内状況が悪いこと、特に50歳代以降で、咬合や嚥下の状況が悪くなっていくことが挙げられる。要介護度やオーラルフレイルの危険性が現在歯数と関連していることから、現在歯数を保つことが重要と考えられる。8020運動やオーラルフレイル対策の必要性の認識が低い若い世代に向けた歯科口腔保健の啓発が必要である。

(参考) 健口かながわ5か条

- 1 健口体操で口腔機能の維持・向上  
口腔機能は、「食べる」「話す」「呼吸をする」といった生活に密着した重要な機能です。口腔機能をいつまでも維持・向上するためには、顔や舌の筋肉を動かす健口体操が効果的です。健口体操を毎日行いましょう。
- 2 かかりつけ歯科医を持って、年に1度は歯科検診  
かかりつけ歯科医は、歯と口腔の健康について相談に応じたり管理をしてくれる歯科医師のことで、特に痛みなどの症状がなくても、年に1回以上の歯科検診をかかりつけ歯科医で定期的に受けましょう。
- 3 なんでもよく噛み、おいしく食べよういつまでも  
むし歯や歯周疾患がなく、何でもよく噛める歯があることは全身の健康を維持するために重要です。また、よく噛むことは、あごや脳の発達を促したり、早食いや食べ過ぎを抑えて肥満予防にも有効です。ひと口30回以上噛むことを意識しましょう。
- 4 鏡を見て、歯と歯肉のセルフチェック  
むし歯や歯周疾患の初期段階は自覚症状が少なく、痛みなどの症状が出た時にはかなり進行していることがあります。歯科疾患を早期に発見するために、普段から鏡を見て、口の中の変化に気付くセルフチェック習慣を身に付けましょう。
- 5 忘れずしよう、歯みがきと歯間(しかん)の清掃  
むし歯や歯周疾患は、歯に溜まった歯垢の中の細菌が原因で起こります。毎日の歯みがきと歯間部の清掃で、むし歯や歯周疾患を予防しましょう。

\* 小数の表記は、小数点第2位を四捨五入し小数点第1位までを示す。

## 2 被調査者

### (1) 被調査者数

被調査者数の総数は5,845人であった。年齢階級別では70～74歳が最も多く、男女別では女性が多かった（男性2,207人、女性3,638人）（表Ⅱ-2-(1)-1、図Ⅱ-2-(1)）。H28調査と比較し、70歳以上が大幅に増加した。高齢者、特に70歳以上で訪問の被調査者数が多く、85歳以上では半数以上を占めた（表Ⅱ-2-(1)-2、図Ⅱ-2-(1)）。

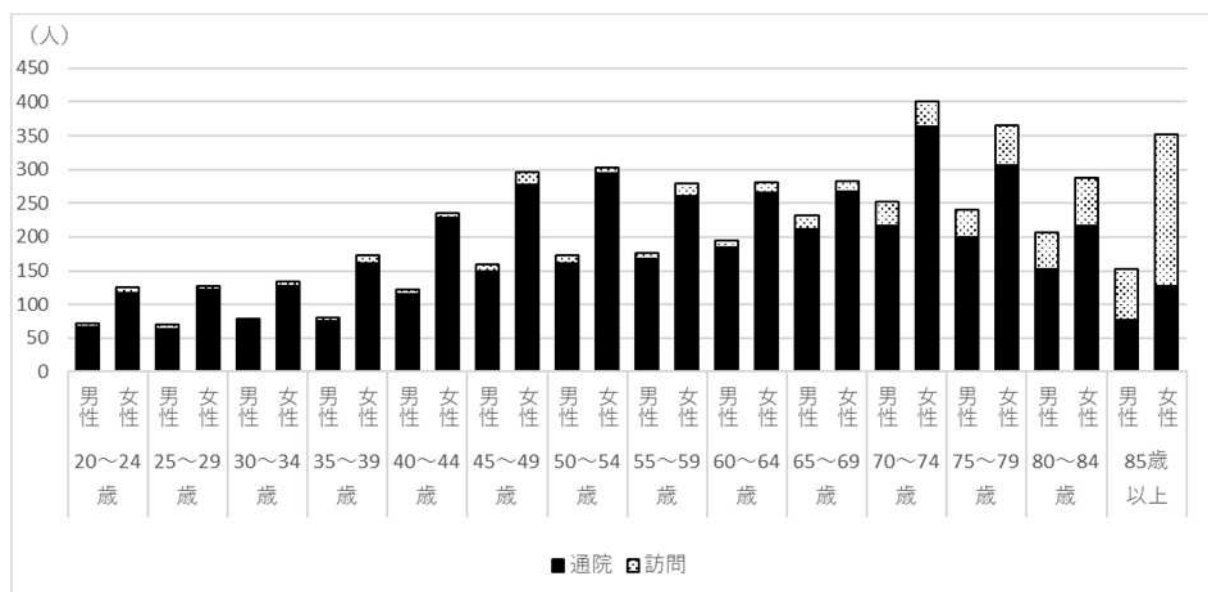
表Ⅱ-2-(1)-1 被調査者数（性・年齢階級別）

年齢	総数	男性	女性
20～24歳	196人	71人（36.2%）	125人（63.8%）
25～29歳	197人	70人（35.5%）	127人（64.5%）
30～34歳	212人	78人（36.8%）	134人（63.2%）
35～39歳	252人	80人（31.7%）	172人（68.3%）
40～44歳	358人	122人（34.1%）	236人（65.9%）
45～49歳	455人	159人（34.9%）	296人（65.1%）
50～54歳	474人	172人（36.3%）	302人（63.7%）
55～59歳	455人	176人（38.7%）	279人（61.3%）
60～64歳	475人	195人（41.1%）	280人（58.9%）
65～69歳	515人	232人（45.0%）	283人（55.0%）
70～74歳	653人	252人（38.6%）	401人（61.4%）
75～79歳	606人	241人（39.8%）	365人（60.2%）
80～84歳	493人	206人（41.8%）	287人（58.2%）
85歳以上	504人	153人（30.4%）	351人（69.6%）
全体	5,845人	2,207人（37.8%）	3,638人（62.2%）

表Ⅱ-2-(1)-2 被調査者数（性・通院/訪問・年齢階級別）

年齢	性別	通院	訪問	年齢	性別	通院	訪問
20～24 歳	男性	66 人	5 人	55～59 歳	男性	167 人	9 人
	女性	117 人	8 人		女性	261 人	18 人
25～29 歳	男性	64 人	6 人	60～64 歳	男性	184 人	11 人
	女性	123 人	4 人		女性	266 人	14 人
30～34 歳	男性	76 人	2 人	65～69 歳	男性	212 人	20 人
	女性	127 人	7 人		女性	268 人	15 人
35～39 歳	男性	75 人	5 人	70～74 歳	男性	216 人	36 人
	女性	161 人	11 人		女性	364 人	37 人
40～44 歳	男性	116 人	6 人	75～79 歳	男性	199 人	42 人
	女性	228 人	8 人		女性	306 人	59 人
45～49 歳	男性	149 人	10 人	80～84 歳	男性	152 人	54 人
	女性	278 人	18 人		女性	217 人	70 人
50～54 歳	男性	161 人	11 人	85 歳以上	男性	77 人	76 人
	女性	294 人	8 人		女性	127 人	224 人
				全体	男性	1,914 人	293 人
					女性	3,137 人	501 人

図Ⅱ-2-(1) 被調査者数（性・通院/訪問・年齢階級別）





## (2) 地区別被調査対象者数

地区別集計区分では全ての地区で被調査者が得られ、H28 調査と比較し、県内全域で1,370人の増であった。平塚保健福祉事務所管内、鎌倉保健福祉事務所管内、足柄上センター管内でわずかに減少したが、その他の地区では増加した(表Ⅱ-2-(2))。

表Ⅱ-2-(2) 地区別被調査対象者数と人口(住民基本台帳人口、令和2年1月1日現在)

地区	人口	被調査者数				増減
		R02			H28	
		通院	訪問	計		
横浜市	3,754,772 人	1,893 人	355 人	2,248 人	1,774 人	474 人
川崎市	1,514,299 人	1,060 人	111 人	1,171 人	873 人	298 人
相模原市	718,300 人	334 人	44 人	378 人	216 人	162 人
横須賀市	401,050 人	253 人	44 人	297 人	219 人	78 人
藤沢市	436,206 人	229 人	44 人	273 人	166 人	107 人
茅ヶ崎市 ※寒川町を含む	292,579 人	157 人	5 人	162 人	134 人	28 人
平塚保健福祉事務所管内	318,267 人	121 人	39 人	160 人	171 人	△ 11 人
鎌倉保健福祉事務所管内	268,927 人	228 人	41 人	269 人	271 人	△ 2 人
小田原保健福祉事務所管内	209,252 人	115 人	3 人	118 人	51 人	67 人
三崎センター管内	43,036 人	37 人	2 人	39 人	0 人	39 人
秦野センター管内	261,620 人	115 人	11 人	126 人	100 人	26 人
厚木保健福祉事務所管内	533,702 人	285 人	75 人	360 人	301 人	59 人
大和センター管内	324,489 人	163 人	9 人	172 人	120 人	52 人
足柄上センター管内	62,705 人	61 人	11 人	72 人	79 人	△ 7 人
計	9,139,204 人	5,051 人	794 人	5,845 人	4,475 人	1,370 人

### 3 口腔診査の結果

#### (1) 現在歯の状況

##### ア 1人平均現在歯数

1人平均現在歯数は全体では23.0本であり、年齢階級では20～24歳の28.4本から緩やかに減少し、50～54歳で26.7本となつてから急速に減少し、75～79歳では20本以下(19.0本)となつた。H18・H23・H28調査と比較すると、80歳以上の1人平均現在歯数は20本以下(80～84歳：16.4本、85歳以上：13.2本)であることは変わらず、H28調査より減少した。

健全歯数は年齢とともに減少するが、H18・H23・H28調査と比較すると20～49歳では増加傾向にあつた。処置歯数は40歳以降では1人平均10本を超えていた。未処置歯数は20～24歳と30～34歳で1本以上となつていたが、H18・H23・28調査と比較すると20歳以降の全ての年齢で減少傾向にあつた。現在歯数の内訳は、全体平均では健全歯数11.2本、処置歯数11.1本、未処置歯数0.8本であつた。健全歯数、処置歯数、未処置歯数いずれもH18・H23・H28調査と比較して減少していた。(表Ⅱ-3-(1)-ア-1、図Ⅱ-3-(1)-ア-1、22)。

高齢者の通院患者・訪問患者別の1人平均現在歯数をみると、いずれの年齢階級でも訪問患者の方が少なかったが、このことについては、R02調査から訪問診療を被調査者に加えたことにより、70歳以上の被調査者数が大幅に増加した影響がうかがえる。ただし、通院患者のみの1人平均現在歯数も全体で24.0本(訪問のみは17.0本)と減少傾向にあることに変わりはなかつた(図Ⅱ-3-(1)-ア-3)。

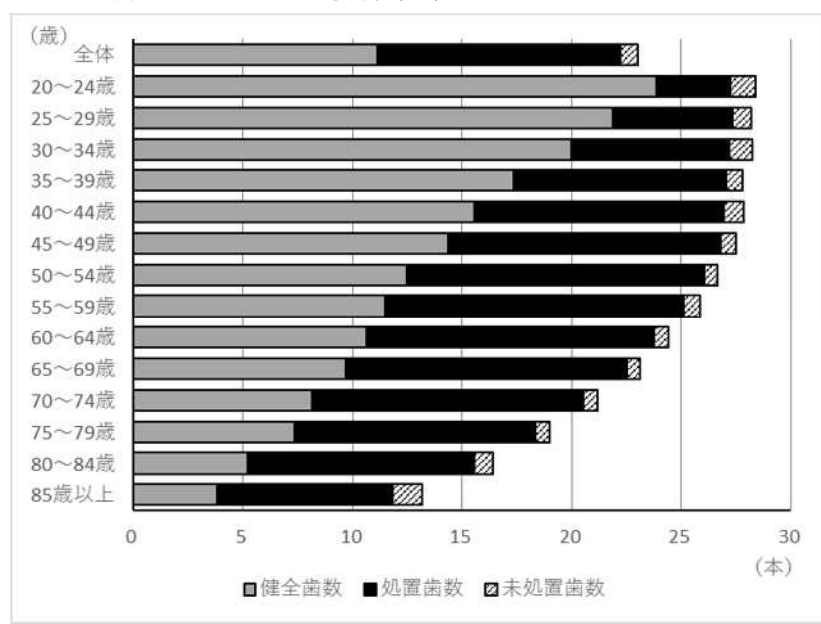
表Ⅱ-3-(1)-ア-1 1人平均現在歯数（H18・H23・H28調査との比較：単位 本）

年齢	調査年度	健全歯数	処置歯数	未処置歯数	現在歯数	年齢	調査年度	健全歯数	処置歯数	未処置歯数	現在歯数
20～ 24歳	R02	23.9	3.4	1.2	28.4	55～ 59歳	R02	11.5	13.7	0.7	25.8
	H28	23.0	4.5	1.4	28.4		H28	10.8	14.2	0.8	25.7
	H23	20.7	5.7	1.9	28.2		H23	10.6	13.1	1.0	24.7
	H18	20.0	6.5	2.1	28.6		H18	11.2	12.4	1.1	24.7
25～ 29歳	R02	21.9	5.5	0.8	28.2	60～ 64歳	R02	10.7	13.1	0.6	24.4
	H28	21.2	6.3	1.4	28.5		H28	10.2	13.2	0.7	24.0
	H23	19.6	7.2	1.6	28.3		H23	9.5	12.8	0.9	23.2
	H18	17.7	8.6	2.2	28.5		H18	10.5	11.8	1.0	23.3
30～ 34歳	R02	20.0	7.2	1.0	28.2	65～ 69歳	R02	9.7	12.8	0.6	23.1
	H28	18.2	8.5	1.3	28.1		H28	9.0	13.2	0.7	22.8
	H23	17.7	9.3	1.3	28.4		H23	8.6	12.7	0.8	22.1
	H18	16.2	10.3	1.9	28.4		H18	10.0	11.3	1.0	22.3
35～ 39歳	R02	17.4	9.7	0.7	27.8	70～ 74歳	R02	8.2	12.4	0.7	21.2
	H28	15.8	11.2	1.1	28.0		H28	8.4	12.5	0.5	21.2
	H23	14.7	12.0	1.2	27.9		H23	8.3	12.5	0.7	21.5
	H18	14.8	11.5	1.5	27.8		H18	7.7	11.7	0.9	20.3
40～ 44歳	R02	15.6	11.4	0.9	27.8	75～ 79歳	R02	7.4	11.0	0.6	19.0
	H28	14.7	12.1	0.7	27.7		H28	7.7	11.9	0.5	19.5
	H23	13.9	12.4	1.1	27.5		H23	6.9	12.0	0.8	19.6
	H18	13.6	12.6	1.4	27.6		H18	6.3	9.9	0.9	17.1
45～ 49歳	R02	14.4	12.4	0.7	27.5	80～ 84歳	R02	5.2	10.4	0.8	16.4
	H28	13.3	12.9	0.6	26.9		H28	6.3	12.1	0.6	18.2
	H23	12.7	13.0	1.0	26.7		H23	4.9	11.9	0.7	17.6
	H18	12.4	13.1	1.2	26.7		H18	4.5	10.9	0.9	16.3
50～ 54歳	R02	12.5	13.5	0.6	26.7	85歳 以上	R02	3.8	8.0	1.3	13.2
	H28	12.5	13.4	0.6	26.7		H28	4.8	10.8	0.7	15.1
	H23	12.1	12.9	1.0	26.0		H23	2.6	8.8	1.0	12.3
	H18	11.6	12.7	1.3	25.6		H18	1.7	5.8	0.5	8.0
						全体	R02	11.2	11.1	0.8	23.0
							H28	12.4	11.8	0.8	24.7
							H23	12.4	11.5	1.1	25.0
							H18	13.1	11.1	1.4	25.6

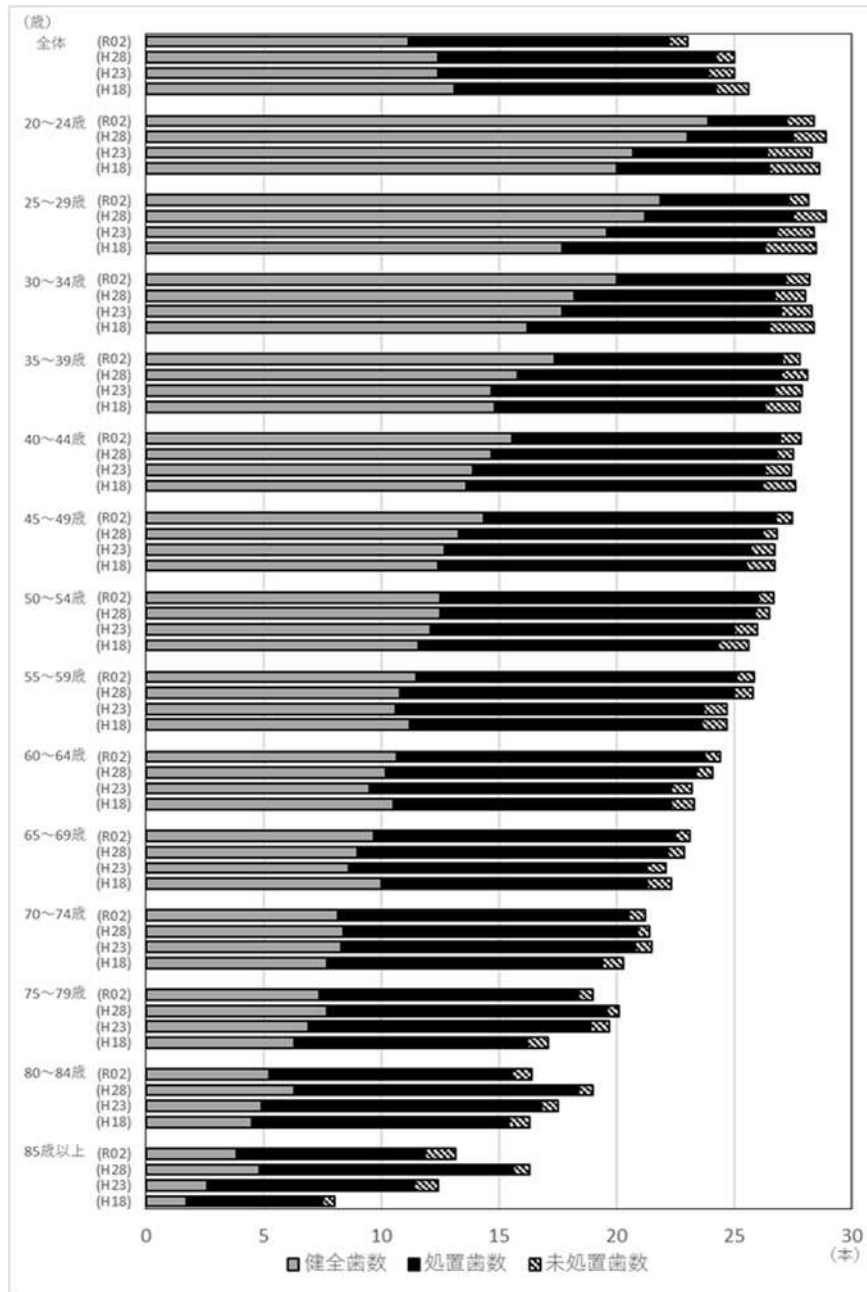
表Ⅱ-3-(1)-ア-2 1人平均現在歯数（通院・訪問別：単位 本）

年齢	通院・訪問	健全歯数	処置歯数	未処置歯数	現在歯数	年齢	通院・訪問	健全歯数	処置歯数	未処置歯数	現在歯数
20～24歳	通院	23.9	3.4	1.1	28.5	55～59歳	通院	11.5	13.5	0.7	25.7
	訪問	23.0	3.0	1.5	27.5		訪問	11.0	15.6	0.7	27.3
25～29歳	通院	21.9	5.4	0.9	28.2	60～64歳	通院	10.6	13.1	0.6	24.4
	訪問	20.7	6.5	0.1	27.3		訪問	11.0	13.4	0.6	25.0
30～34歳	通院	19.9	7.2	1.1	28.2	65～69歳	通院	9.8	13.1	0.5	23.4
	訪問	22.8	5.6	0.2	28.6		訪問	8.9	8.5	1.5	18.9
35～39歳	通院	17.3	9.8	0.8	27.8	70～74歳	通院	8.3	12.7	0.6	21.5
	訪問	19.0	7.8	0.6	27.4		訪問	7.3	10.0	1.5	18.8
40～44歳	通院	15.6	11.3	0.9	27.8	75～79歳	通院	7.4	11.2	0.5	19.1
	訪問	14.0	14.0	0.9	28.9		訪問	7.3	9.9	1.0	18.3
45～49歳	通院	14.4	12.5	0.7	27.5	80～84歳	通院	5.3	11.3	0.6	17.3
	訪問	14.4	11.8	0.9	27.0		訪問	4.8	7.6	1.4	13.8
50～54歳	通院	12.6	13.5	0.6	26.7	85歳以上	通院	4.3	9.6	1.0	15.0
	訪問	11.1	14.3	0.2	25.6		訪問	3.5	6.9	1.5	11.9
						全体	通院	11.8	11.5	0.7	24.0
							訪問	7.10	8.66	1.26	17.0

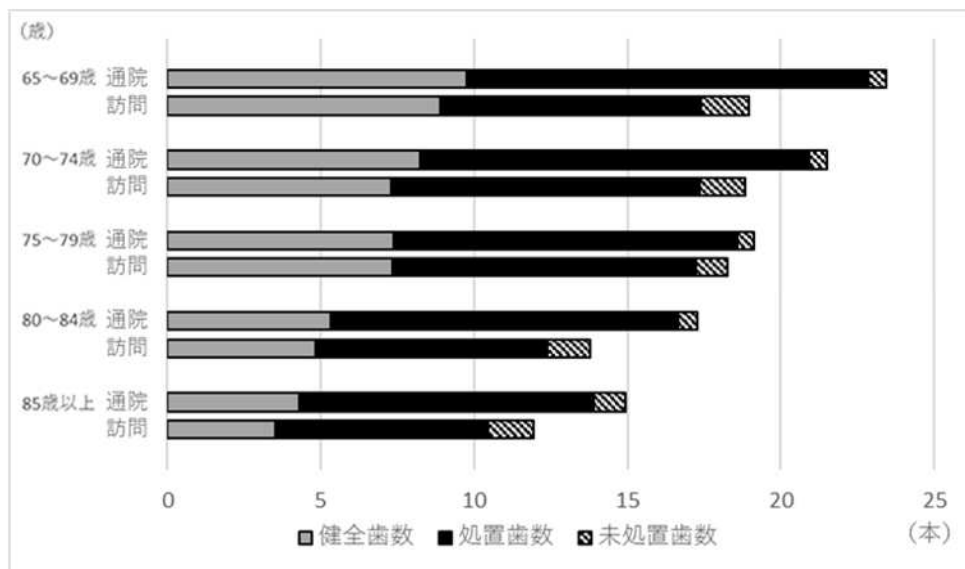
図Ⅱ-3-(1)-ア-1 1人平均現在歯数



図Ⅱ-3-(1)-ア-2 1人平均現在歯数（H18・H23・H28調査との比較）



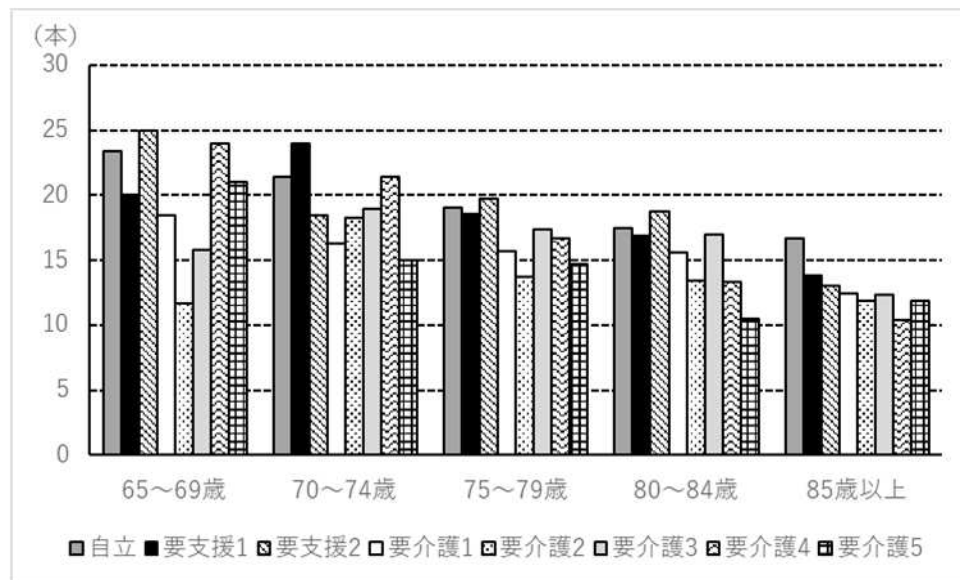
図Ⅱ-3-(1)-ア-3 1人平均現在歯数（65歳以上の通院・訪問別比較）



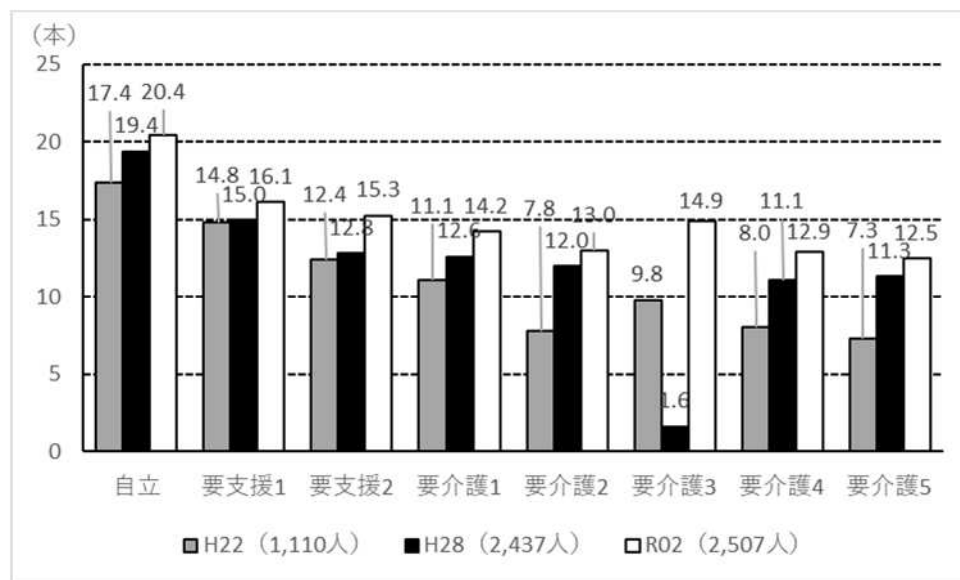
表Ⅱ-3-(1)-ア-3 1人平均現在歯数（要介護度別：単位 本）（65歳以上）

年齢	自立	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
65～69歳	23.4	20.0	25.0	18.5	11.7	15.8	24.0	21.0
70～74歳	21.4	24.0	18.5	16.3	18.3	19.0	21.5	15.0
75～79歳	19.1	18.6	19.8	15.7	13.7	17.4	16.7	14.7
80～84歳	17.5	16.9	18.8	15.6	13.4	17.0	13.3	10.5
全体	20.4	16.1	15.3	14.2	13.0	14.9	12.9	12.5

図Ⅱ-3-(1)-ア-3 1人平均現在歯数（要介護度別：単位 本）（65歳以上）



図Ⅱ-3-(1)-ア-4 要介護度別1人平均現在歯数（H22・H28調査との比較）



\*平成22年度及び平成28年度は県健康増進課調べ

\*R02調査の数値は65歳以上のみ

## イ う蝕有病者とその処置状況

処置完了者、処置・未処置のある者、未処置者のいずれか明確であった者はR02調査において5,845人中5,692人であった。これらのうち、う蝕有病者（処置完了者及び処置・未処置のある者、未処置者）は96.4%で、処置完了者は全体では69.2%、処置・未処置のある者は25.4%、未処置者は1.7%であった（表Ⅱ-3-(1)-イ-1、図Ⅱ-3-(1)-イ-1）。20～29歳では、う蝕がない者の割合が高く、未処置者の割合も高い傾向だった。全体では、H28調査から処置完了者の割合が増加し、それ以外は減少した。85歳以上では処置完了者の割合は減少し、処置・未処置のある者の割合が増加した（表Ⅱ-3-(1)-イ-1、図Ⅱ-3-(1)-イ-2）。被調査者に訪問診療を受けた者が加わったことが影響しているものと考えられる。

表Ⅱ-3-(1)-イ-1 う蝕有病者率（H18・H23・H28調査との比較：単位%）

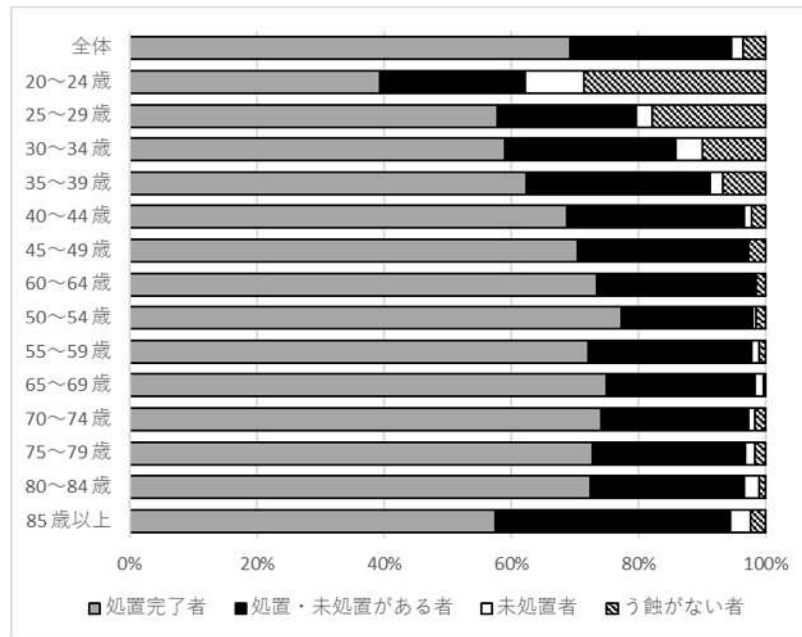
年齢 (R02母数)	調査 年度	処置 完了者	処置・ 未処置 ある者	未処置 者	う蝕が ない者	年齢 (R02母数)	調査 年度	処置 完了者	処置・ 未処置 ある者	未処置 者	う蝕が ない者
20～ 24歳 (196)	R02	39.3	23.0	9.2	28.6	55～ 59歳 (455)	R02	72.1	25.7	1.1	1.1
	H28	40.0	23.9	10.2	25.9		H28	58.0	29.6	7.0	5.4
	H23	45.0	38.9	5.2	10.9		H23	69.2	28.7	0.7	1.4
	H18	43.9	42.9	7.6	5.5		H18	62.0	35.3	2.3	0.4
25～ 29歳 (197)	R02	57.9	21.8	2.5	17.8	60～ 64歳 (474)	R02	73.4	24.7	0.4	1.5
	H28	50.2	26.5	8.1	15.2		H28	63.0	27.9	4.4	4.7
	H23	47.1	37.3	5.1	10.2		H23	66.1	30.9	1.7	1.4
	H18	46.1	44.0	7.0	2.9		H18	62.9	34.0	1.7	1.4
30～ 34歳 (212)	R02	59.0	26.9	4.2	9.9	65～ 69歳 (511)	R02	75.0	23.3	1.4	0.4
	H28	53.1	31.9	4.7	10.3		H28	64.2	26.6	4.5	4.7
	H23	52.2	41.7	2.6	3.5		H23	68.3	29.7	0.7	1.3
	H18	50.1	44.2	3.2	2.4		H18	61.5	34.9	1.6	1.9
35～ 39歳 (252)	R02	62.3	29.0	2.0	6.7	70～ 74歳 (643)	R02	74.2	23.0	1.1	1.7
	H28	54.8	34.4	5.0	5.7		H28	66.8	24.3	2.8	6.1
	H23	55.3	40.5	2.1	2.1		H23	66.8	31.6	0.0	1.6
	H18	55.1	41.2	2.8	0.9		H18	66.2	27.6	1.7	4.4
40～ 44歳 (358)	R02	68.7	27.9	1.1	2.2	75～ 79歳 (587)	R02	72.7	24.0	1.5	1.7
	H28	63.4	27.2	4.3	5.1		H28	64.8	25.1	2.3	7.8
	H23	60.5	36.8	0.6	2.1		H23	67.2	28.9	0.0	4.0
	H18	57.0	40.6	1.5	0.9		H18	63.3	27.3	2.9	6.5
45～ 49歳 (455)	R02	70.3	26.8	0.2	2.6	80～ 84歳 (453)	R02	72.4	24.3	2.2	1.1
	H28	63.1	24.0	4.5	8.3		H28	67.1	24.0	4.2	4.8
	H23	66.6	31.8	0.3	1.3		H23	65.9	27.5	1.1	5.5
	H18	62.1	35.5	1.7	0.7		H18	58.6	31.0	1.7	8.6
50～ 54歳 (474)	R02	77.2	20.7	0.6	1.5	85歳 以上 (425)	R02	57.4	36.9	3.3	2.4
	H28	61.7	26.2	5.4	6.8		H28	63.4	23.9	5.6	7.0
	H23	58.2	38.1	1.5	2.2		H23	62.1	27.6	0.0	10.3
	H18	56.9	41.1	1.4	0.5		H18	59.1	18.2	0.0	22.7
					全体 (5,692)	R02	69.2	25.4	1.7	3.6	
						H28	60.6	26.8	4.9	7.7	
						H23	61.1	34.1	1.5	3.3	
						H18	56.6	38.2	2.9	2.2	

\*数値は過去の調査との比較のため処置状況の回答のあった者における割合

表Ⅱ-3-(1)-イ-2 う蝕有病者率（男女別）

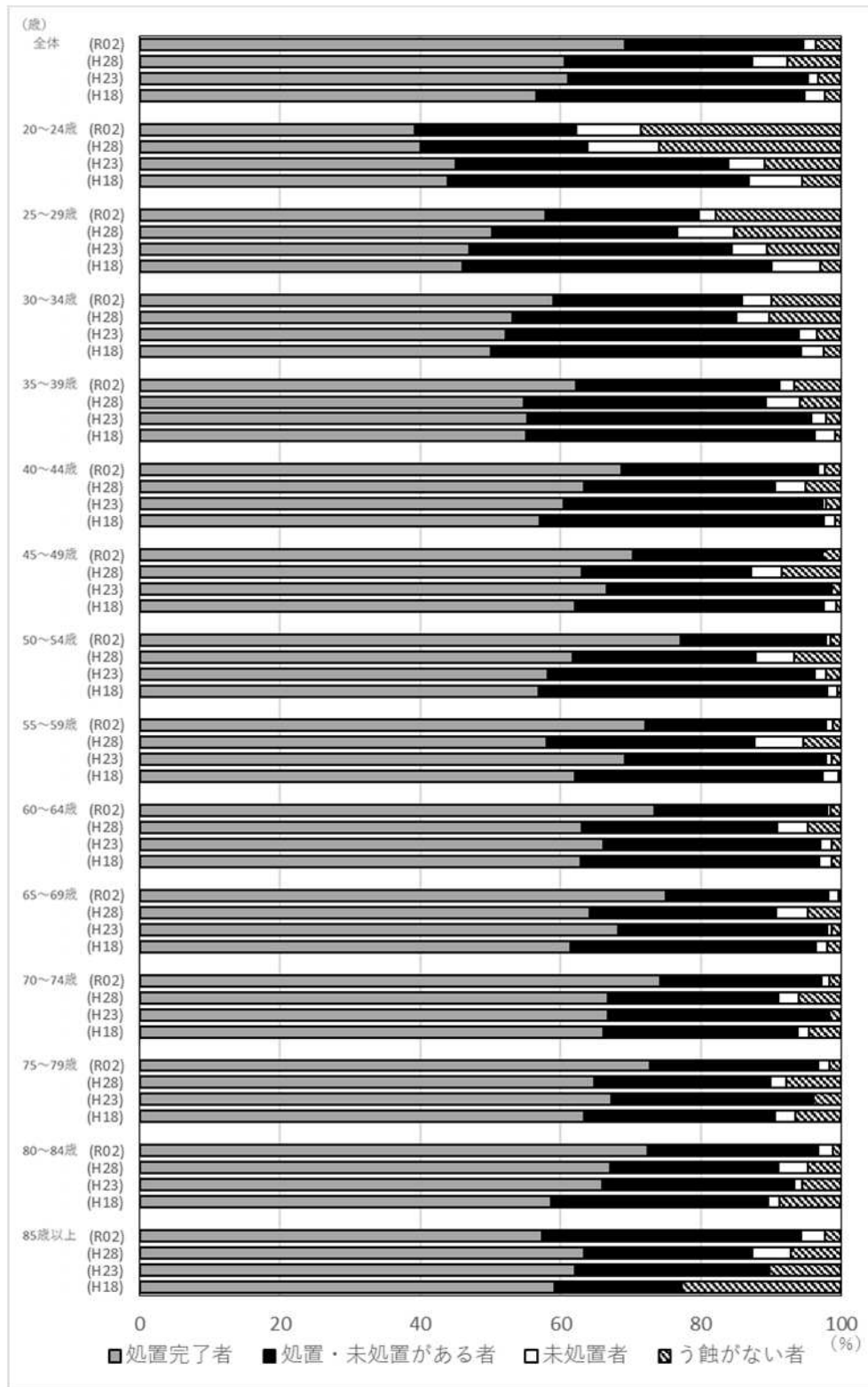
年齢	性別	処置完了者	処置・未処置ある者	未処置者	う蝕がない者	年齢	性別	処置完了者	処置・未処置ある者	未処置者	う蝕がない者	
20～24歳	男性	39.4%	16.9%	12.7%	31.0%	55～59歳	男性	69.3%	27.3%	2.3%	1.1%	
	女性	39.2%	26.4%	7.2%	27.2%		女性	73.8%	24.7%	0.4%	1.1%	
25～29歳	男性	55.7%	27.1%	1.4%	15.7%	60～64歳	男性	70.6%	25.8%	1.0%	2.6%	
	女性	59.1%	18.9%	3.1%	18.9%		女性	75.4%	23.9%	0.0%	0.7%	
30～34歳	男性	60.3%	32.1%	2.6%	5.1%	65～69歳	男性	73.4%	24.5%	1.3%	0.9%	
	女性	58.2%	23.9%	5.2%	12.7%		女性	76.2%	22.3%	1.4%	0.0%	
35～39歳	男性	56.3%	30.0%	5.0%	8.8%	70～74歳	男性	70.6%	24.2%	2.0%	3.2%	
	女性	65.1%	28.5%	0.6%	5.8%		女性	76.5%	22.3%	0.5%	0.8%	
40～44歳	男性	65.6%	30.3%	0.8%	3.3%	75～79歳	男性	69.0%	28.0%	0.4%	2.6%	
	女性	70.3%	26.7%	1.3%	1.7%		女性	75.2%	21.4%	2.3%	1.1%	
45～49歳	男性	64.2%	31.4%	0.6%	3.8%	80～84歳	男性	72.3%	24.5%	2.1%	1.1%	
	女性	73.6%	24.3%	0.0%	2.0%		女性	72.5%	24.2%	2.3%	1.1%	
50～54歳	男性	74.4%	22.7%	1.2%	1.7%	85歳以上	男性	53.1%	39.2%	3.8%	3.8%	
	女性	78.8%	19.5%	0.3%	1.3%		女性	59.3%	35.9%	3.1%	1.7%	
							全体	男性	66.8%	27.1%	2.0%	4.0%
								女性	70.7%	24.4%	1.6%	3.4%

図Ⅱ-3-(1)-イ-1 う蝕有病者率





図Ⅱ-3-(1)-イ-2 う蝕有病者率 (H18・H23・H28 調査との比較)



## ウ う蝕有病菌率

う蝕有病菌率は、20～24歳の17.2%から年齢階級が上がるにつれて増加傾向を示し、85歳以上で86.8%と最も割合が高かった。

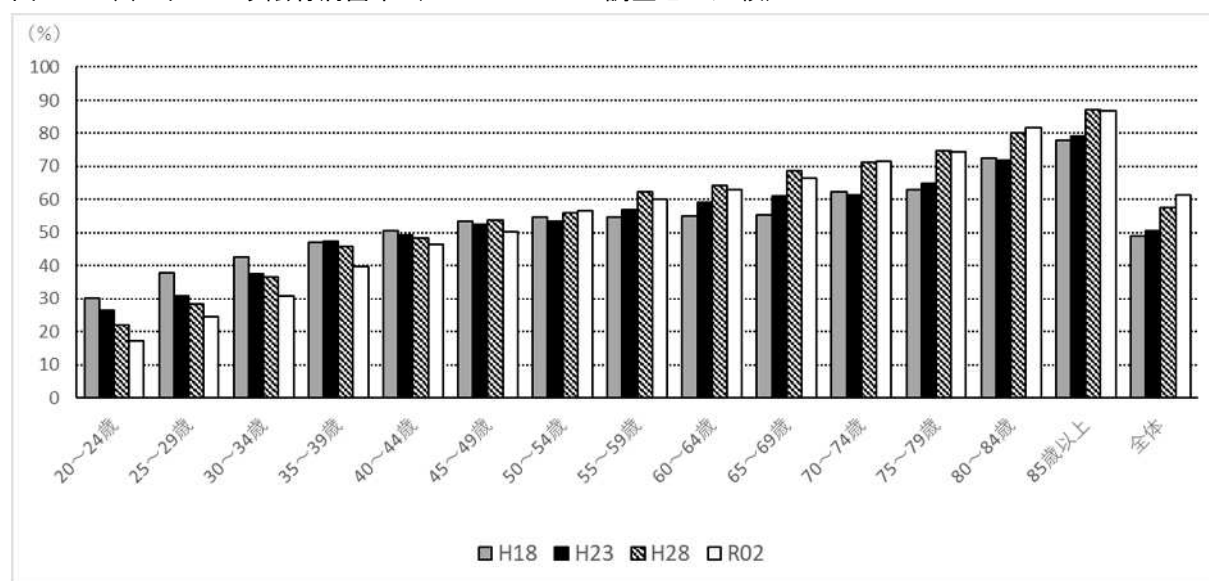
H18・H23・H28調査との比較では、う蝕有病菌率は、20～49歳では減少傾向を示し、50歳以上ではH28調査から横ばい傾向を呈していた。特に20～39歳においてはH18調査から比較すると顕著な減少傾向にあった（表Ⅱ-3-(1)-ウ-1、図Ⅱ-3-(1)-ウ-1）。

表Ⅱ-3-(1)-ウ-1 う蝕有病菌率\*（H18・H23・H28調査との比較）

年齢	調査年度	有病菌率	年齢	調査年度	有病菌率	年齢	調査年度	有病菌率
20～ 24歳	R02	17.2	45～ 49歳	R02	50.3	70～ 74歳	R02	71.7
	H28	22.1		H28	53.8		H28	71.1
	H23	26.6		H23	52.5		H23	61.5
	H18	30.2		H18	53.4		H18	62.3
25～ 29歳	R02	24.5	50～ 54歳	R02	56.8	75～ 79歳	R02	74.3
	H28	28.5		H28	55.9		H28	74.7
	H23	30.9		H23	53.5		H23	64.9
	H18	37.8		H18	54.7		H18	62.9
30～ 34歳	R02	30.8	55～ 59歳	R02	60.2	80～ 84歳	R02	81.8
	H28	36.7		H28	62.5		H28	80.0
	H23	37.5		H23	57.1		H23	71.9
	H18	42.8		H18	54.7		H18	72.5
35～ 39歳	R02	39.9	60～ 64歳	R02	63.0	85歳 以上	R02	86.8
	H28	45.9		H28	64.4		H28	87.1
	H23	47.4		H23	59.1		H23	79.2
	H18	47.0		H18	55.1		H18	78.0
40～ 44歳	R02	46.4	65～ 69歳	R02	66.4	全体	R02	61.3
	H28	48.4		H28	68.8		H28	57.7
	H23	49.3		H23	61.0		H23	50.5
	H18	50.6		H18	55.3		H18	48.9

\* (処置歯＋喪失歯＋未処置歯) / (現在歯＋喪失歯)

図Ⅱ-3-(1)-ウ-1 う蝕有病菌率（H18・H23・H28調査との比較）



## エ 1人平均未処置歯数とその内訳

全体での1人平均未処置歯数は0.8本と1本を下回り、その内訳はC1が0.1本、C2が0.4本、C3が0.1本、C4が0.2本であった。

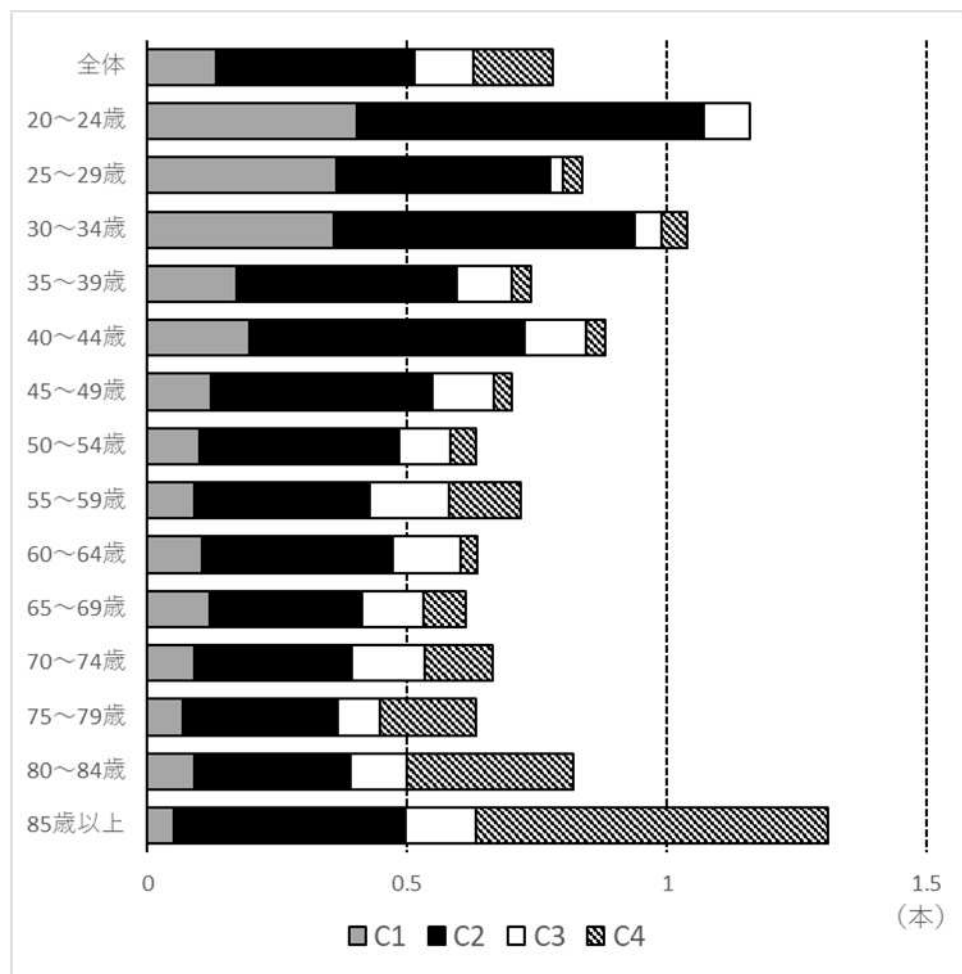
20～24歳と30～34歳でのC1、C2、C3、C4の合計は1本以上と多いが、45～79歳では0.6～0.7本程度で推移していた。80歳以降から再び増加に転じていたが、高齢者では訪問患者で本数が多かった。特に20～24歳、25～29歳、30～34歳でのC1、C2の合計はそれぞれ1.1本、0.8本、0.9本であり、未処置歯数が多い傾向にあった（表Ⅱ-3-(1)-エ-1、図Ⅱ-3-(1)-エ-1）。また、未処置歯数の内訳として、C1、C2は年齢が上がるにつれて概ね減少傾向にあった（表Ⅱ-3-(1)-エ-3、図Ⅱ-3-(1)-エ-3）。

H18・H23・H28調査との比較（表Ⅱ-3-(1)-エ-2、4、図Ⅱ-3-(1)-エ-2、4）では、R02調査の1人平均未処置歯数は訪問患者で多いものの、全体ではやや減少しており、未処置歯数の内訳においても全体的にう蝕の軽症化がうかがえた。

表Ⅱ-3-(1)-エ-1 1人平均未処置歯数（本）

年齢	C1	C2	C3	C4	年齢	C1	C2	C3	C4
<b>20～24歳</b>	<b>0.4</b>	<b>0.7</b>	<b>0.1</b>	<b>0.0</b>	<b>55～59歳</b>	<b>0.1</b>	<b>0.3</b>	<b>0.2</b>	<b>0.1</b>
通院	0.4	0.6	0.1	0.0	通院	0.1	0.3	0.2	0.1
訪問	0.2	1.4	0.0	0.0	訪問	0.2	0.3	0.1	0.0
<b>25～29歳</b>	<b>0.4</b>	<b>0.4</b>	<b>0.0</b>	<b>0.0</b>	<b>60～64歳</b>	<b>0.1</b>	<b>0.4</b>	<b>0.1</b>	<b>0.0</b>
通院	0.4	0.4	0.0	0.0	通院	0.1	0.4	0.1	0.0
訪問	0.0	0.1	0.0	0.0	訪問	0.0	0.4	0.2	0.0
<b>30～34歳</b>	<b>0.4</b>	<b>0.6</b>	<b>0.1</b>	<b>0.0</b>	<b>65～69歳</b>	<b>0.1</b>	<b>0.3</b>	<b>0.1</b>	<b>0.1</b>
通院	0.4	0.6	0.1	0.0	通院	0.1	0.3	0.1	0.1
訪問	0.0	0.1	0.0	0.1	訪問	0.2	0.7	0.2	0.5
<b>35～39歳</b>	<b>0.2</b>	<b>0.4</b>	<b>0.1</b>	<b>0.0</b>	<b>70～74歳</b>	<b>0.1</b>	<b>0.3</b>	<b>0.1</b>	<b>0.1</b>
通院	0.2	0.4	0.1	0.0	通院	0.1	0.2	0.1	0.1
訪問	0.1	0.3	0.2	0.0	訪問	0.1	0.7	0.2	0.5
<b>40～44歳</b>	<b>0.2</b>	<b>0.5</b>	<b>0.1</b>	<b>0.0</b>	<b>75～79歳</b>	<b>0.1</b>	<b>0.3</b>	<b>0.1</b>	<b>0.2</b>
通院	0.2	0.5	0.1	0.0	通院	0.1	0.3	0.1	0.1
訪問	0.1	0.6	0.2	0.1	訪問	0.1	0.3	0.1	0.5
<b>45～49歳</b>	<b>0.1</b>	<b>0.4</b>	<b>0.1</b>	<b>0.0</b>	<b>80～84歳</b>	<b>0.1</b>	<b>0.3</b>	<b>0.1</b>	<b>0.3</b>
通院	0.1	0.4	0.1	0.0	通院	0.1	0.2	0.1	0.2
訪問	0.1	0.6	0.2	0.0	訪問	0.1	0.5	0.2	0.7
<b>50～54歳</b>	<b>0.1</b>	<b>0.4</b>	<b>0.1</b>	<b>0.0</b>	<b>85歳以上</b>	<b>0.1</b>	<b>0.4</b>	<b>0.1</b>	<b>0.7</b>
通院	0.1	0.4	0.1	0.1	通院	0.1	0.5	0.1	0.3
訪問	0.0	0.2	0.0	0.0	訪問	0.0	0.4	0.1	0.9
					<b>全体</b>	<b>0.1</b>	<b>0.4</b>	<b>0.1</b>	<b>0.2</b>
					通院	0.1	0.4	0.1	0.1
					訪問	0.1	0.5	0.1	0.6

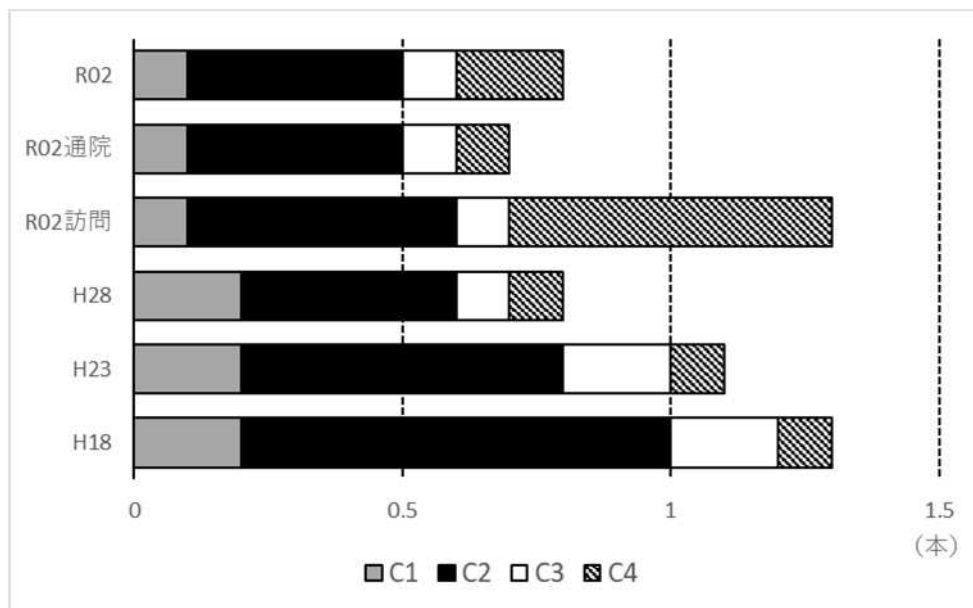
図Ⅱ-3-(1)-エ-1 1人平均未処置歯数



表Ⅱ-3-(1)-エ-2 1人平均未処置歯数 (H18・H23・H28 調査との比較)

調査年度	C1	C2	C3	C4
R02	0.1	0.4	0.1	0.2
R02 通院	0.1	0.4	0.1	0.1
R02 訪問	0.1	0.5	0.1	0.6
H28	0.2	0.4	0.1	0.1
H23	0.2	0.6	0.2	0.1
H18	0.2	0.8	0.2	0.1

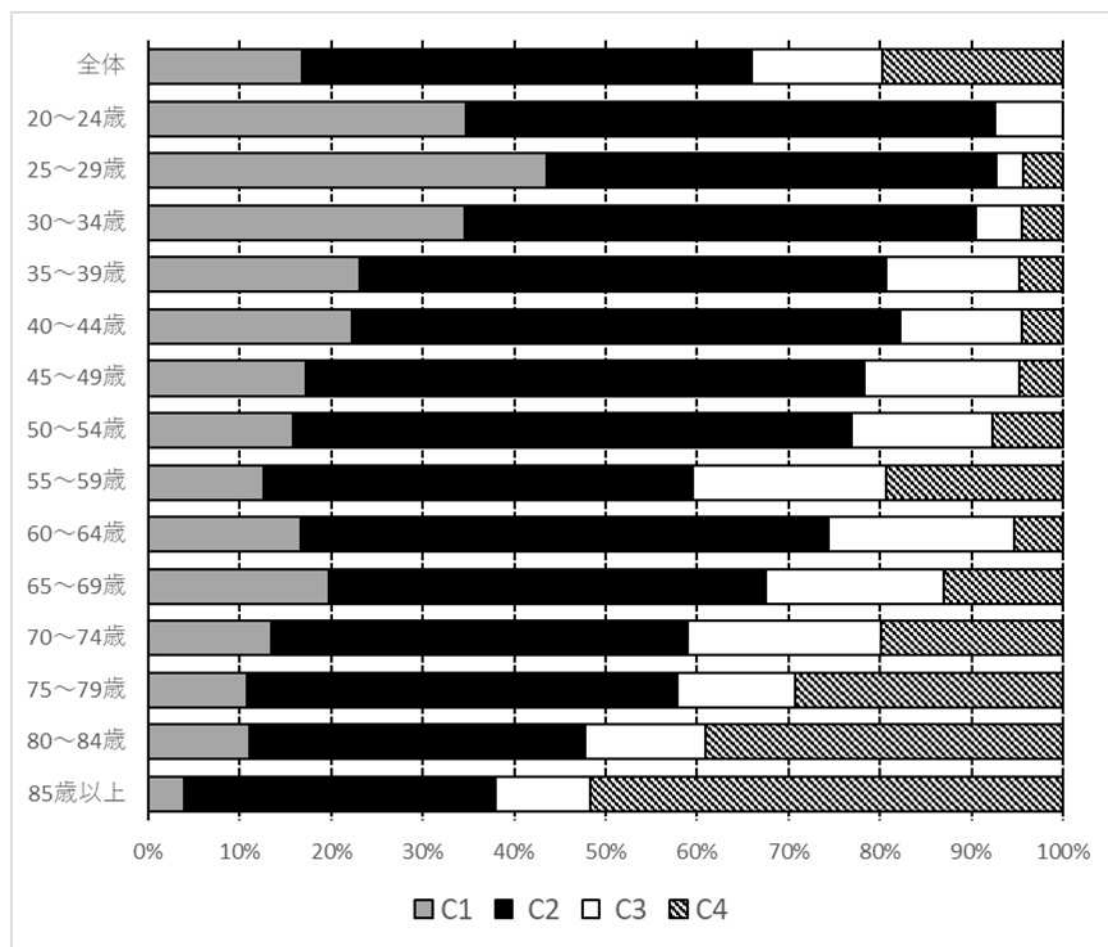
図Ⅱ-3-(1)-エ-2 1人平均未処置歯数 (H18・H23・H28 調査との比較)



表Ⅱ-3-(1)-エ-3 1人平均未処置歯数の内訳 (% [本])

年齢	[本数計]	C1	C2	C3	C4
20～24 歳	[227]	34.8% [79]	57.7% [131]	7.5% [17]	0.0% [0]
25～29 歳	[163]	43.6% [71]	49.1% [80]	3.1% [5]	4.3% [7]
30～34 歳	[220]	34.5% [76]	55.9% [123]	5.0% [11]	4.5% [10]
35～39 歳	[186]	23.1% [43]	57.5% [107]	14.5% [27]	4.8% [9]
40～44 歳	[315]	22.2% [70]	60.0% [189]	13.3% [42]	4.4% [14]
45～49 歳	[318]	17.3% [55]	61.0% [194]	17.0% [54]	4.7% [15]
50～54 歳	[298]	15.8% [47]	61.1% [182]	15.4% [46]	7.7% [23]
55～59 歳	[326]	12.6% [41]	46.9% [153]	21.2% [69]	19.3% [63]
60～64 歳	[301]	16.6% [50]	57.8% [174]	20.3% [61]	5.3% [16]
65～69 歳	[314]	19.7% [62]	47.8% [150]	19.4% [61]	13.1% [41]
70～74 歳	[432]	13.4% [58]	45.6% [197]	21.1% [91]	19.9% [86]
75～79 歳	[382]	10.7% [41]	47.1% [180]	12.8% [49]	29.3% [112]
80～84 歳	[404]	11.1% [45]	36.6% [148]	13.1% [53]	39.1% [158]
85 歳以上	[659]	3.9% [26]	34.0% [224]	10.3% [68]	51.7% [341]
全体	[4,545]	16.8% [764]	49.1% [2,232]	14.4% [654]	19.7% [895]

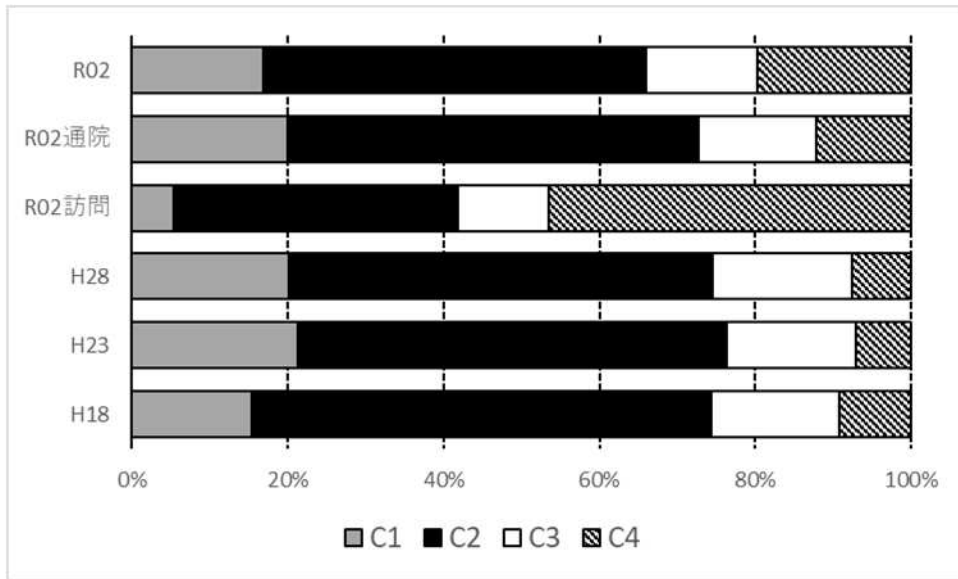
図Ⅱ-3-(1)-エ-3 1人平均未処置歯数の内訳(%)



表Ⅱ-3-(1)-エ-4 未処置歯数の内訳(H18・H23・H28調査との比較)

調査年度	C1	C2	C3	C4
R02	16.8%	49.1%	14.4%	19.7%
R02 通院	20.0%	52.7%	15.1%	12.2%
R02 訪問	5.3%	36.4%	11.8%	46.5%
H28	20.2%	54.4%	17.8%	7.6%
H23	21.3%	55.1%	16.6%	7.0%
H18	15.4%	58.8%	16.4%	9.2%

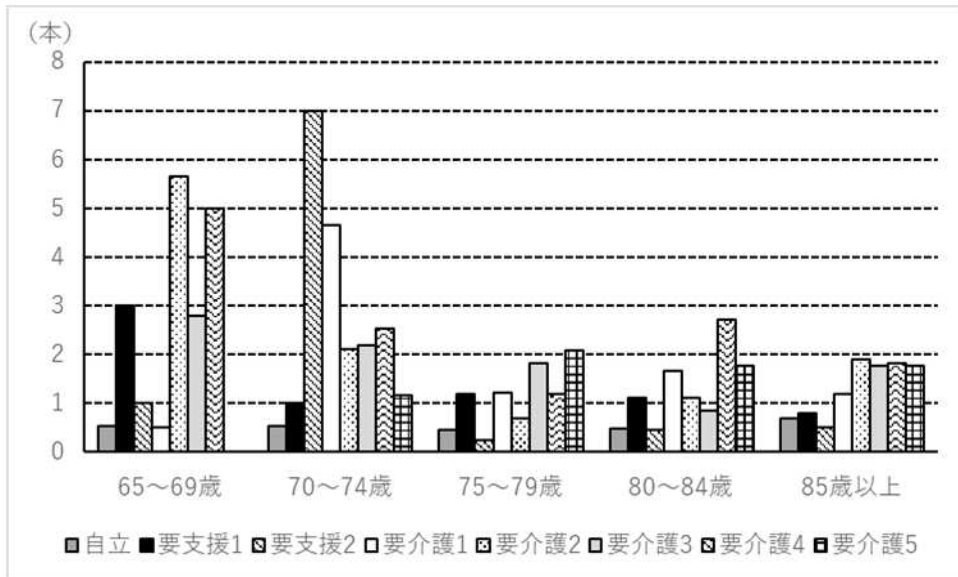
図Ⅱ-3-(1)-エ-4 未処置歯数の内訳 (H18・H23・H28 調査との比較)



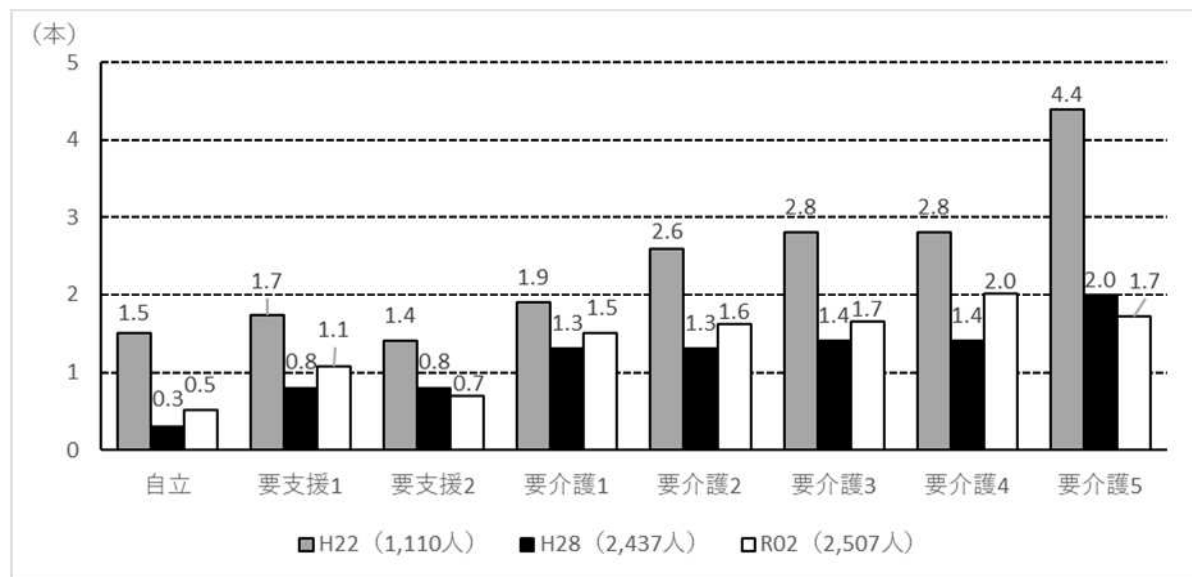
表Ⅱ-3-(1)-エ-5 1人平均未処置歯数 (要介護度別：単位 本) (65歳以上)

年齢	自立	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
65～69歳	0.5	3.0	1.0	0.5	5.7	2.8	5.0	0.0
70～74歳	0.5	1.0	7.0	4.7	2.1	2.2	2.5	1.2
75～79歳	0.5	1.2	0.3	1.2	0.7	1.8	1.2	2.1
80～84歳	0.5	1.1	0.4	1.7	1.1	0.8	2.7	1.8
全体	0.7	0.8	0.5	1.2	1.9	1.8	1.8	1.8

図Ⅱ-3-(1)-エ-5 1人平均未処置歯数 (要介護度別：単位 本) (65歳以上)



図Ⅱ-3-(1)-エ-6 要介護度別 1人平均未処置歯数 (H22・H28 調査との比較)



\*平成 22 年度及び平成 28 年度は県健康増進課調べ

\*R02 調査の数値は 65 歳以上のみ



## (2) 喪失歯とその補綴状況

### ア 喪失歯を有する者の割合

喪失歯を有する者の割合は全体の69.5%であり、年齢階級別では、20～24歳で13.3%と最も低く、年齢階級が上がるにつれて85歳以上の97.0%まで概ね段階的に増加がみられた。

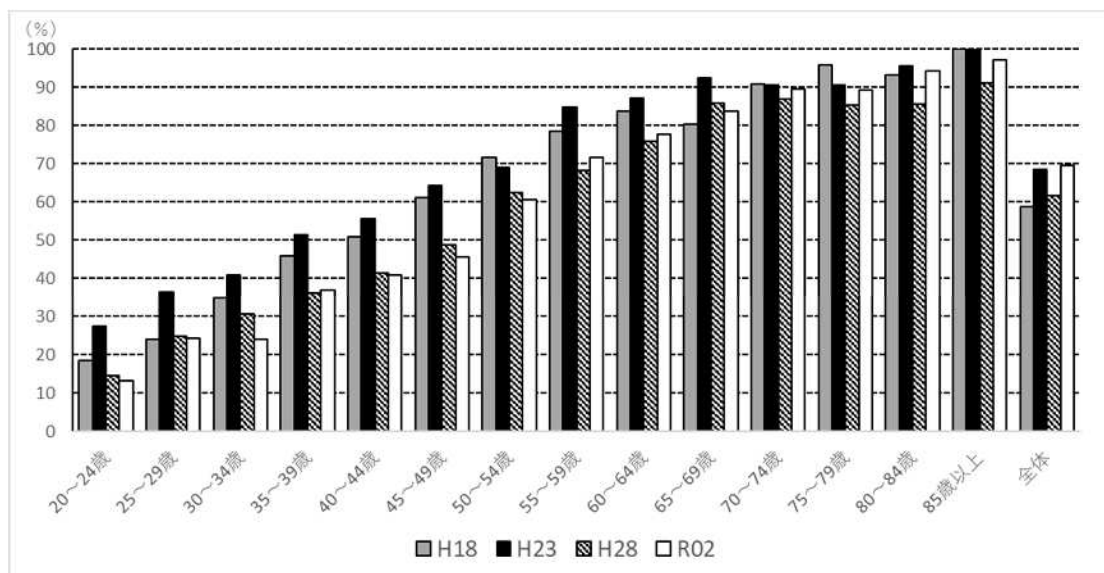
H18・H23・H28調査との比較（表Ⅱ-3-(2)-ア-1、図Ⅱ-3-(2)-ア-1）では、85歳以上の超高齢者において喪失歯を有する者の割合がH28調査の91.0%から97.0%に増加していた。全体でもH28調査と比較して喪失歯を有する者は増加し、H23調査と同水準であった。

R02調査を通院患者・訪問患者別でみると、訪問患者ではH18・H23・H28調査よりも多く、通院患者でもH23調査と同水準であった。高齢者の被調査者数の増加が影響していると考えられる。

表Ⅱ-3-(2)-ア-1 喪失歯を有する者の割合（H18・H23・H28調査との比較）

年齢	調査年度	割合(%)	年齢	調査年度	割合(%)	調査年度	調査	割合(%)
20～ 24歳	R02	13.3	45～ 49歳	R02	45.5	70～ 74歳	R02	89.6
	H28	14.5		H28	48.7		H28	86.8
	H23	27.5		H23	64.3		H23	90.6
	H18	18.4		H18	61.2		H18	90.8
25～ 29歳	R02	24.4	50～ 54歳	R02	60.5	75～ 79歳	R02	89.1
	H28	24.7		H28	62.4		H28	85.3
	H23	36.5		H23	69.0		H23	90.5
	H18	24.0		H18	71.5		H18	95.7
30～ 34歳	R02	24.1	55～ 59歳	R02	71.6	80～ 84歳	R02	94.3
	H28	30.7		H28	68.3		H28	85.5
	H23	40.8		H23	84.8		H23	95.6
	H18	34.7		H18	78.4		H18	93.1
35～ 39歳	R02	36.9	60～ 64歳	R02	77.7	85歳 以上	R02	97.0
	H28	36.2		H28	75.9		H28	91.0
	H23	51.5		H23	87.1		H23	100.0
	H18	45.8		H18	83.8		H18	100.0
40～ 44歳	R02	40.8	65～ 69歳	R02	83.7	全体	R02	69.5
	H28	41.5		H28	85.7		R02 通院	67.0
	H23	55.7		H23	92.4		R02 訪問	85.6
	H18	50.8		H18	80.2		H28	61.7
					H23		68.5	
					H18		58.7	

図Ⅱ-3-(2)-ア-1 喪失歯を有する者の割合（H18・H23・H28調査との比較）



### イ 1人平均喪失歯数

1人平均喪失歯数は全体では5.8本であり、20~24歳の0.4本から年齢階級が上がるにつれて増加し、50歳以降で急激な増加傾向がみられた。

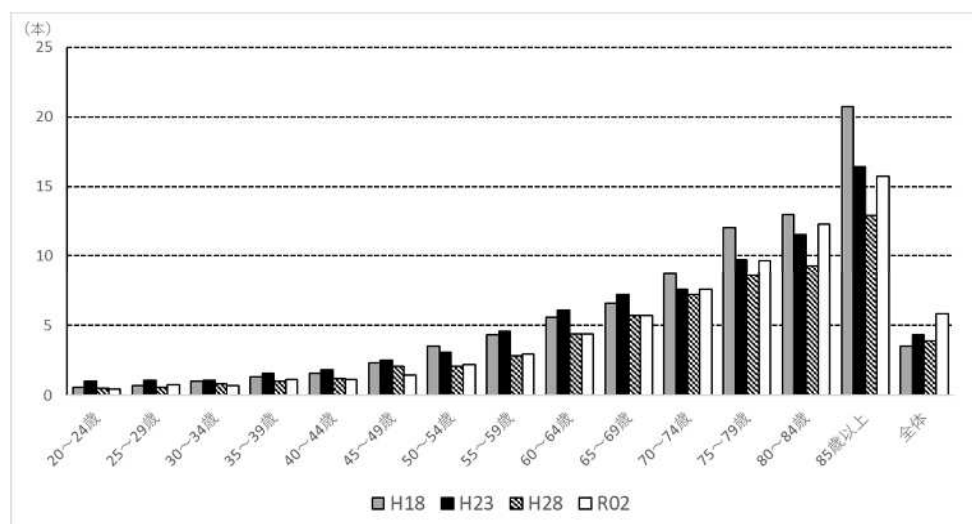
H18・H23・H28調査との比較（表Ⅱ-3-(2)-イ-1、図Ⅱ-3-(2)-イ-1）では、全体での1人平均喪失歯数に増加がみられた。45~49歳では減少傾向がみられたが、69歳まではH28調査と概ね同様の本数であったのに対し、70歳以上ではH23調査と概ね同様の本数であった。

R02調査を通院患者・訪問患者別でみると、訪問患者では11.9本と通院患者の2倍以上の本数であり、H18・H23・H28調査と比較しても極めて多かった。通院患者においても最も多い結果であった。新型コロナウイルス感染症の蔓延に伴い、治療ニーズの高い患者が多かったことが影響しているものと考えられる。

表Ⅱ-3-(2)-イ-1 1人平均喪失歯数（H18・H23・H28調査との比較）

年齢	調査年度	歯数(本)	年齢	調査年度	歯数(本)	調査年度	調査	歯数(本)
20~24歳	R02	0.4	45~49歳	R02	1.4	70~74歳	R02	7.6
	H28	0.5		H28	2.1		H28	7.2
	H23	1.0		H23	2.5		H23	7.6
	H18	0.6		H18	2.3		H18	8.7
25~29歳	R02	0.8	50~54歳	R02	2.2	75~79歳	R02	9.6
	H28	0.6		H28	2.1		H28	8.6
	H23	1.1		H23	3.1		H23	9.7
	H18	0.7		H18	3.5		H18	12.0
30~34歳	R02	0.7	55~59歳	R02	3.0	80~84歳	R02	12.3
	H28	0.8		H28	2.8		H28	9.3
	H23	1.1		H23	4.6		H23	11.5
	H18	1.0		H18	4.3		H18	13.0
35~39歳	R02	1.1	60~64歳	R02	4.4	85歳以上	R02	15.8
	H28	1.0		H28	4.4		H28	12.9
	H23	1.6		H23	6.1		H23	16.4
	H18	1.3		H18	5.6		H18	20.7
40~44歳	R02	1.2	65~69歳	R02	5.7	全体	R02	5.8
	H28	1.2		H28	5.7		R02 通院	4.9
	H23	1.8		H23	7.2		R02 訪問	11.9
	H18	1.6		H18	6.6		H28	3.9
							H23	4.3
						H18	3.5	

図Ⅱ-3-(2)-イ-1 1人平均喪失歯数 (H18・H23・H28 調査との比較)



### ウ 20本以上の歯を有する者の割合

R02 調査において、20本以上の歯を有する者の割合は20~44歳で99%を超えていたが、45歳から85歳以上まで年齢階級が上がるにつれて減少傾向にあった。

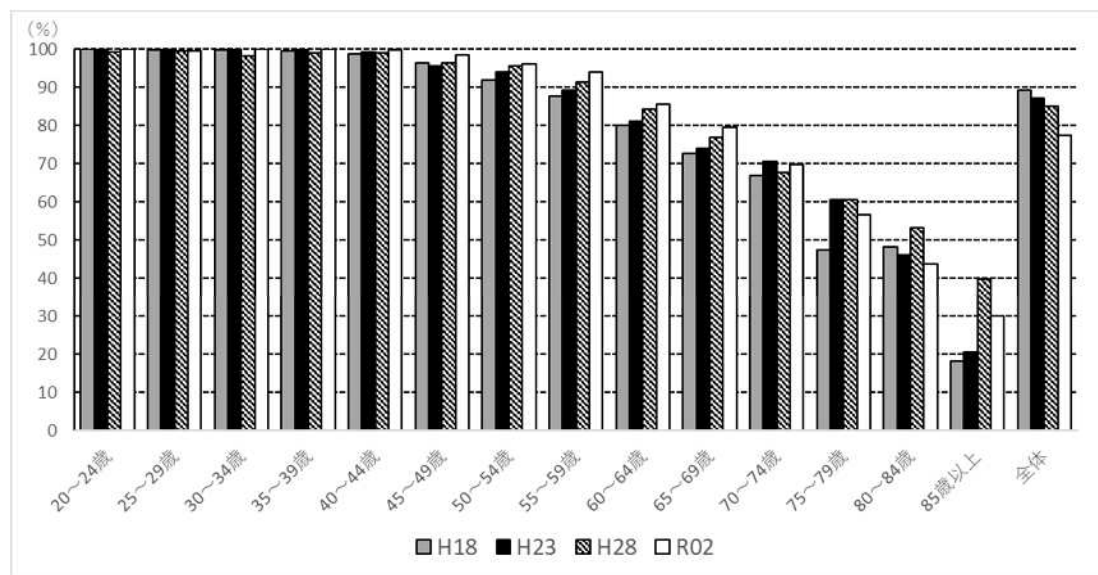
H18・H23・H28 調査との比較 (表Ⅱ-3-(2)-ウ-1、図Ⅱ-3-(2)-ウ-1) では、69歳以下における20本以上の歯を有する者の割合は、調査回数を追うごとに増加していた。70~74歳ではH18・H23・H28 調査と同程度、75歳以降ではH28 調査より少なく、H28 調査と比較して70歳以降の減少が大きかった。

R02 調査を通院患者・訪問患者別でみると、訪問患者では48.6%と通院患者よりも著しく少なかった。また、通院患者の81.9%もH18・H23・H28 調査より少ない結果であった。

表Ⅱ-3-(2)-ウ-1 20本以上の歯を有する者の割合 (H18・H23・H28 調査との比較)

年齢	調査年度	割合 (%)	年齢	調査年度	割合 (%)	調査年度	調査	割合 (%)
20~24歳	R02	100.0	45~49歳	R02	98.5	70~74歳	R02	69.7
	H28	99.1		H28	96.4		H28	67.8
	H23	100.0		H23	95.5		H23	70.6
	H18	100.0		H18	96.4		H18	66.9
25~29歳	R02	99.5	50~54歳	R02	96.0	75~79歳	R02	56.6
	H28	99.6		H28	95.5		H28	60.6
	H23	100.0		H23	94.0		H23	60.7
	H18	99.8		H18	91.9		H18	47.5
30~34歳	R02	100.0	55~59歳	R02	93.8	80~84歳	R02	43.8
	H28	98.2		H28	91.4		H28	53.1
	H23	100.0		H23	89.3		H23	46.2
	H18	99.8		H18	87.7		H18	48.3
35~39歳	R02	100.0	60~64歳	R02	85.7	85歳以上	R02	30.0
	H28	99.0		H28	84.3		H28	39.7
	H23	99.7		H23	81.0		H23	20.7
	H18	99.5		H18	80.0		H18	18.2
40~44歳	R02	99.7	65~69歳	R02	79.6	全体	R02	77.4
	H28	99.0		H28	76.9		R02 通院	81.9
	H23	99.1		H23	73.9		R02 訪問	48.6
	H18	98.7		H18	72.8		H28	84.9
					H23		87.0	
					H18		89.3	

図Ⅱ-3-(2)-ウ-1 20本以上の歯を有する者の割合（H18・H23・H28調査との比較）



## エ 欠損補綴の状況

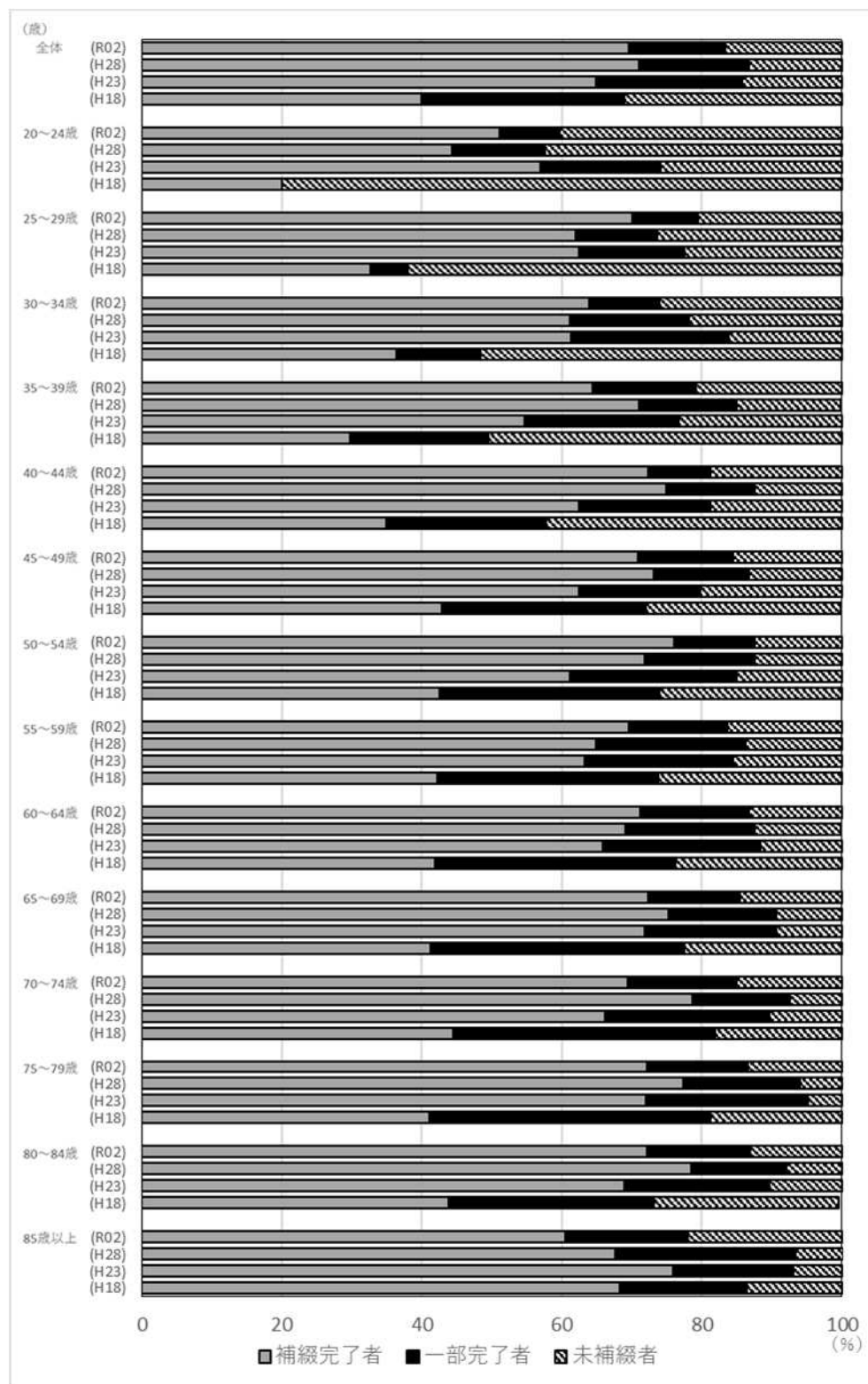
補綴完了者の割合は、20～24歳では51.1%であるが、25歳以上では70%前後で推移し、85歳以上で60.5%に下がった。未補綴者は20～24歳では40.3%と多いものの、25～29歳では20.6%と急激に減少し、40歳以上では15%前後を推移して85歳以上で22.0%と増加した（表Ⅱ-3-(2)-エ-1）。

H18・H23・H28調査との比較（表Ⅱ-3-(2)-エ-1、図Ⅱ-3-(2)-エ-1）では、R02調査における全体の補綴完了者の割合は69.6%とH28調査からはやや減少し、H23調査以降横ばい傾向となった。

表Ⅱ-3-(2)-エ-1 欠損補綴の状況（H18・H23・H28調査との比較）

年齢	調査年度	補綴完了者 (%)	一部完了者 (%)	未補綴者 (%)	年齢	調査年度	補綴完了者 (%)	一部完了者 (%)	未補綴者 (%)
20～24歳	R02	51.1	8.6	40.3	55～59歳	R02	69.6	14.0	16.4
	H28	44.3	13.3	42.4		H28	64.8	21.5	13.7
	H23	56.9	17.2	25.9		H23	63.3	21.2	15.5
	H18	20.0	0.0	80.0		H18	42.2	31.6	26.2
25～29歳	R02	70.0	9.4	20.6	60～64歳	R02	71.2	15.6	13.2
	H28	62.0	11.7	26.3		H28	69.1	18.5	12.3
	H23	62.4	15.1	22.6		H23	65.8	22.5	11.7
	H18	32.6	5.4	62.0		H18	41.9	34.3	23.8
30～34歳	R02	63.9	10.0	26.1	65～69歳	R02	72.4	13.1	14.5
	H28	61.1	17.1	21.8		H28	75.3	15.4	9.3
	H23	61.3	22.6	16.1		H23	71.8	18.9	9.3
	H18	36.4	11.9	51.7		H18	41.3	36.2	22.5
35～39歳	R02	64.4	14.8	20.8	70～74歳	R02	69.4	15.5	15.1
	H28	71.1	13.8	15.0		H28	78.7	13.8	7.5
	H23	54.7	22.0	23.3		H23	66.2	23.5	10.3
	H18	29.8	19.7	50.5		H18	44.5	37.4	18.1
40～44歳	R02	72.4	8.8	18.8	75～79歳	R02	72.2	14.3	13.5
	H28	74.9	12.7	12.4		H28	77.4	16.6	6.0
	H23	62.4	18.8	18.8		H23	72.0	23.1	4.9
	H18	35.0	22.7	42.3		H18	41.0	40.3	18.7
45～49歳	R02	70.8	13.6	15.6	80～84歳	R02	72.1	14.9	13.0
	H28	73.1	13.7	13.2		H28	78.5	13.5	8.0
	H23	62.4	17.3	20.3		H23	69.0	20.7	10.3
	H18	42.9	29.1	27.9		H18	43.9	29.3	26.3
50～54歳	R02	76.1	11.5	12.4	85歳以上	R02	60.5	17.6	22.0
	H28	71.8	15.7	12.5		H28	67.6	25.7	6.8
	H23	61.1	23.8	15.1		H23	75.9	17.2	6.9
	H18	42.5	31.5	26.0		H18	68.2	18.2	13.6
全体	R02	69.6	13.8	16.7	全体	R02	69.6	13.8	16.7
	H28	71.1	15.6	13.3		H28	71.1	15.6	13.3
	H23	64.9	20.9	14.2		H23	64.9	20.9	14.2
	H18	40.0	28.9	31.1		H18	40.0	28.9	31.1

図Ⅱ-3-(2)-エ-1 欠損補綴の状況 (H18・H23・H28 調査との比較)



### (3) 歯周組織の状況

歯周組織の診査には CPI (Community Periodontal Index) が用いられている。平成 25 年に世界保健機構 (WHO) は CPI の判定基準を大きく改定し、本邦でも新しい診査方法に切り替わったことを受け、本県においても H28 調査より改定 CPI を用いて歯周組織の評価を行うこととした。そのため、H18・H23 調査結果との直接的な比較はできないため、本報告書では H28 調査との比較のみの結果を示すこととした。

従来の CPI との相違点は、歯肉からの出血 (BOP:コード 0、1、9、X) とポケットの深さ (PD:コード 0、1、2、9、X) を別々に評価する点、歯石の付着については考慮されなくなった点である。この判定基準の変化により、H28 調査においてコード化できない診査データについては不明として除外して公表されたデータを用いた。(表Ⅱ-3-(3)-ア-3、図Ⅱ-3-(3)-ア-4、2)。

CPI の判定基準

	コード	所見	判定基準
歯肉出血 (BOP)	0	健全	以下の所見が認められない
	1	出血あり	プロービング後 10～30 秒以内に出血が認められる
	9	除外歯	プロービングが出来ない歯 (根の露出が根尖に及ぶ等)
	X	該当する歯なし	
歯周ポケット (PD)	0	健全	以下の所見が全て認められない
	1	4～5mmに達するポケット	プローブの黒い部分に歯肉縁が位置する
	2	6mmを超えるポケット	プローブの黒い部分が見えなくなる
	9	除外歯	プロービングが出来ない歯 (根の露出が根尖に及ぶ等)
	X	該当する歯なし	

#### ア 歯肉及び歯周ポケットの状況

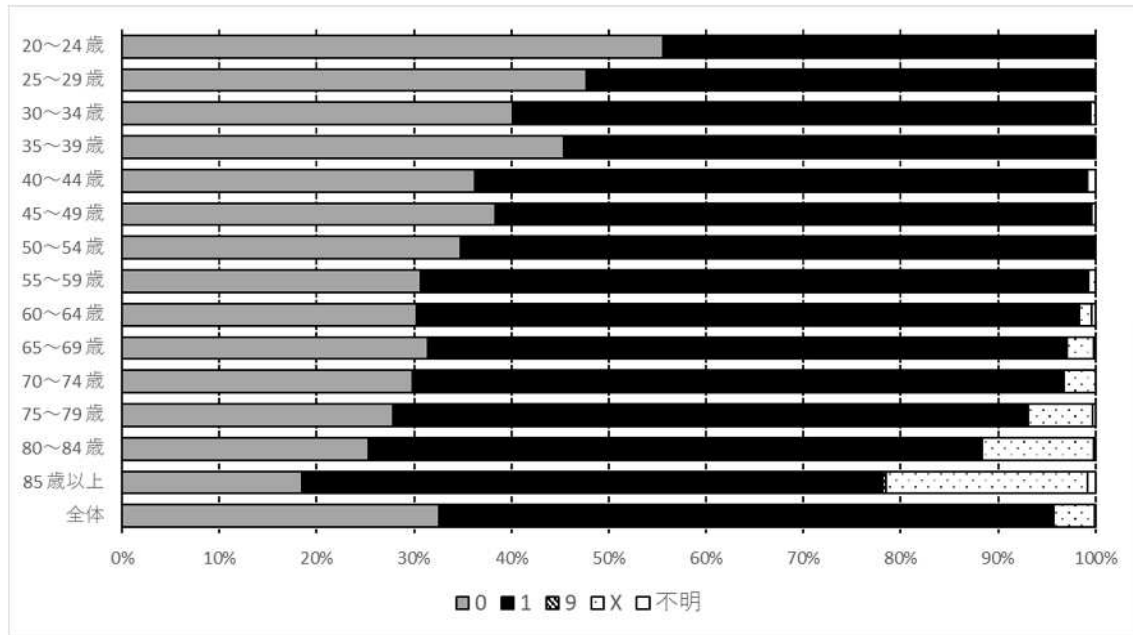
20～24 歳における「歯肉出血あり (BOP コードの 1)」の者の割合は 44.4%と約半数を占め、30 歳以降は約 60%であった。また、「4～5 ミリの歯周ポケット (PD コード 1)」と「6 ミリ以上の歯周ポケット (PD コード 2)」の者を合わせると、20～24 歳でもすでに 30%程度であることが示された。PD コード 1 のみの場合は 30～34 歳では 42.5%となり、50～54 歳では約 50%程度となった。PD コード 2 は 20 歳代から年齢が上がるにつれて増加していき、55～74 歳で 20%前後、75～84 歳で 25%前後となり、85 歳以上では 20.4%とやや減少した。PD コード 1 と 2 を合わせると 55 歳以上から約 70%以上となり、80 歳以上ではやや減少した。このことから、歯周ポケットがある者は 20～24 歳においても約 3 割存在し、年齢が上がるにつれて増加し、全体では 6 割以上を占めていた。

表Ⅱ-3-(3)-ア-1 歯肉及び歯周ポケットの状況と割合 (CPI)

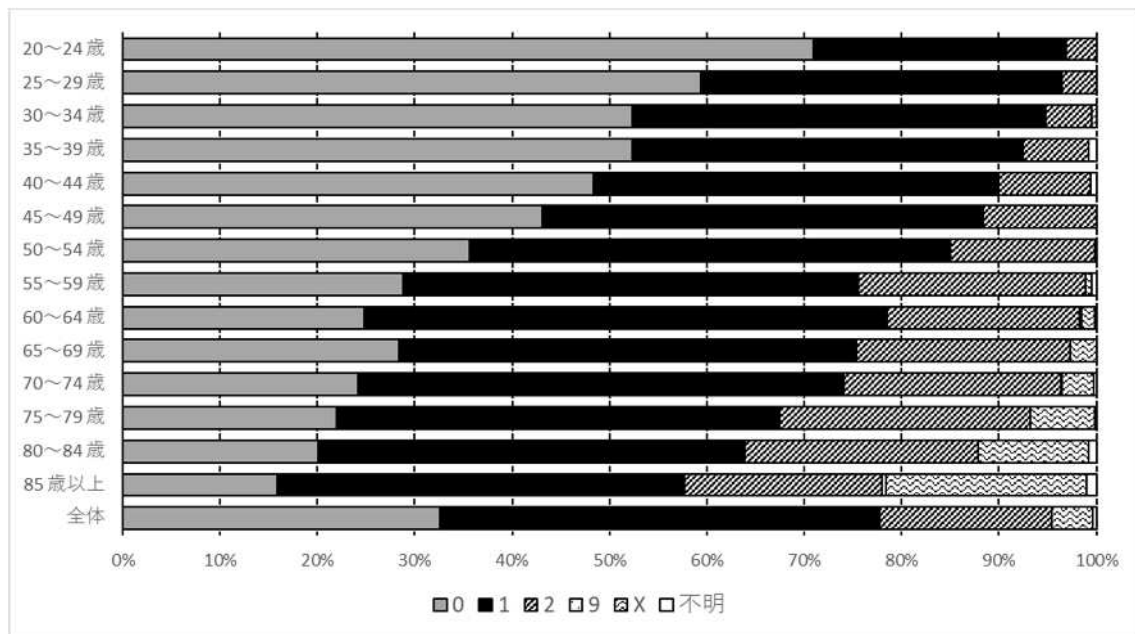
	CPI 最大コード: 歯周組織の状況(人、%)										
	BOP(歯肉出血)コード					PD(歯周ポケット)コード					
	0	1	9	X	不明	0	1	2	9	X	不明
20～24 歳	109 55.6%	87 44.4%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	139 70.9%	51 26.0%	6 3.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
25～29 歳	94 47.7%	103 52.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	117 59.4%	73 37.1%	7 3.6%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
30～34 歳	85 40.1%	126 59.4%	0 0.0%	1 0.5%	0 0.0%	111 52.4%	90 42.5%	10 4.7%	0 0.0%	1 0.5%	0 0.0%
35～39 歳	113 44.8%	136 54.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 1.2%	132 52.4%	101 40.1%	17 6.7%	0 0.0%	0 0.0%	2 0.8%
40～44 歳	130 36.3%	226 63.1%	0 0.0%	0 0.0%	2 0.6%	173 48.3%	149 41.6%	34 9.5%	0 0.0%	0 0.0%	2 0.6%
45～49 歳	175 38.5%	280 61.5%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	196 43.1%	206 45.3%	53 11.6%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
50～54 歳	165 34.8%	308 65.0%	0 0.0%	1 0.2%	0 0.0%	169 35.7%	234 49.4%	70 14.8%	0 0.0%	1 0.2%	0 0.0%
55～59 歳	139 30.5%	311 68.4%	0 0.0%	3 0.7%	2 0.4%	131 28.8%	213 46.8%	106 23.3%	0 0.0%	3 0.7%	2 0.4%
60～64 歳	144 30.3%	323 68.0%	1 0.2%	6 1.3%	1 0.2%	118 24.8%	255 53.7%	94 19.8%	1 0.2%	6 1.3%	1 0.2%
65～69 歳	162 31.5%	339 65.8%	0 0.0%	14 2.7%	0 0.0%	146 28.3%	242 47.0%	113 21.9%	0 0.0%	14 2.7%	0 0.0%
70～74 歳	194 29.7%	435 66.6%	1 0.2%	21 3.2%	2 0.3%	158 24.2%	326 49.9%	145 22.2%	1 0.2%	21 3.2%	2 0.3%
75～79 歳	169 27.9%	396 65.3%	0 0.0%	40 6.6%	1 0.2%	133 21.9%	276 45.5%	156 25.7%	0 0.0%	40 6.6%	1 0.2%
80～84 歳	124 25.2%	309 62.7%	0 0.0%	56 11.4%	4 0.8%	99 20.1%	216 43.8%	118 23.9%	0 0.0%	56 11.4%	4 0.8%
85 歳以上	93 18.5%	300 59.5%	2 0.4%	104 20.6%	5 1.0%	80 15.9%	211 41.9%	102 20.2%	2 0.4%	104 20.6%	5 1.0%
全体	1,896 32.4%	3,679 62.9%	4 0.1%	246 4.2%	20 0.3%	1,902 32.5%	2,643 45.2%	1,031 17.6%	4 0.1%	246 4.2%	19 0.3%



図Ⅱ-3-(3)-ア-1 歯肉の出血 (CPI : BOP コード)



図Ⅱ-3-(3)-ア-2 歯周ポケット (CPI : PD コード)

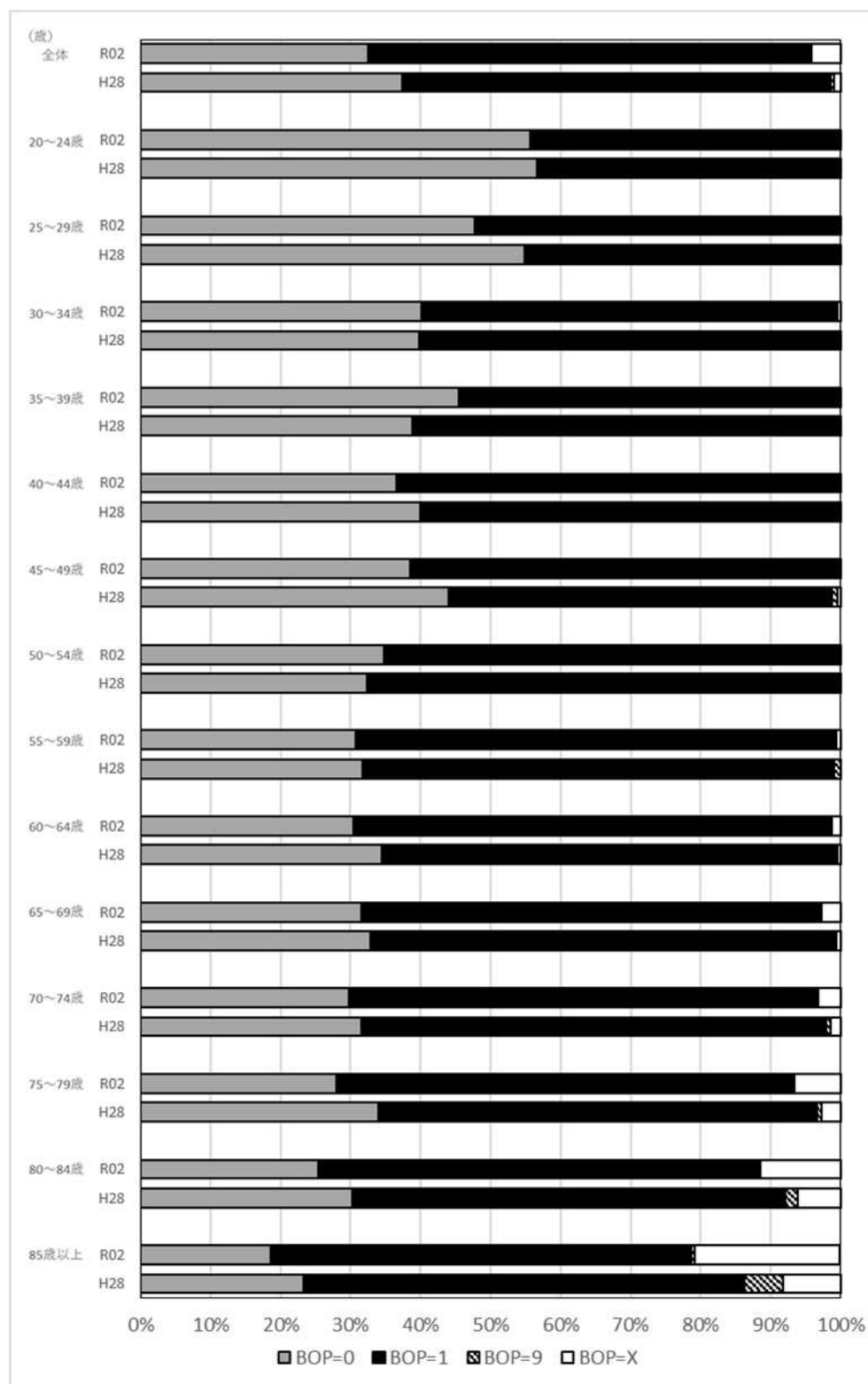


表Ⅱ-3-(3)-ア-2 BOP(歯肉出血)コード (H28 調査との比較)

年齢	調査年度	BOP(歯肉出血)コード			
		0	1	9	X
20～24 歳	R02	55.6%	44.4%	0.0%	0.0%
	H28	56.6%	43.4%	0.0%	0.0%
25～29 歳	R02	47.7%	52.3%	0.0%	0.0%
	H28	54.8%	45.2%	0.0%	0.0%
30～34 歳	R02	40.1%	59.4%	0.0%	0.5%
	H28	39.8%	60.2%	0.0%	0.0%
35～39 歳	R02	44.8%	54.0%	0.0%	0.0%
	H28	38.8%	61.2%	0.0%	0.0%
40～44 歳	R02	36.3%	63.1%	0.0%	0.0%
	H28	40.0%	59.7%	0.3%	0.0%
45～49 歳	R02	38.5%	61.5%	0.0%	0.0%
	H28	44.0%	54.8%	0.7%	0.5%
50～54 歳	R02	34.8%	65.0%	0.0%	0.2%
	H28	32.3%	67.4%	0.0%	0.3%
55～59 歳	R02	30.5%	68.4%	0.0%	0.7%
	H28	31.7%	67.4%	0.9%	0.0%
60～64 歳	R02	30.3%	68.0%	0.2%	1.3%
	H28	34.4%	64.8%	0.3%	0.6%
65～69 歳	R02	31.5%	65.8%	0.0%	2.7%
	H28	32.8%	66.4%	0.2%	0.6%
70～74 歳	R02	29.7%	66.6%	0.2%	3.2%
	H28	31.6%	66.4%	0.5%	1.6%
75～79 歳	R02	27.9%	65.3%	0.0%	6.6%
	H28	33.9%	62.7%	0.6%	2.8%
80～84 歳	R02	25.2%	62.7%	0.0%	11.4%
	H28	30.3%	61.8%	1.8%	6.1%
85 歳以上	R02	18.5%	59.5%	0.4%	20.6%
	H28	23.3%	63.0%	5.5%	8.2%
全体	R02	32.4%	62.9%	0.1%	4.2%
	H28	37.3%	61.3%	0.5%	1.0%

\*H28 調査との比較のため、不明を除いて集計

図Ⅱ-3-(3)-ア-3 BOP(歯肉出血)コード (H28 調査との比較)



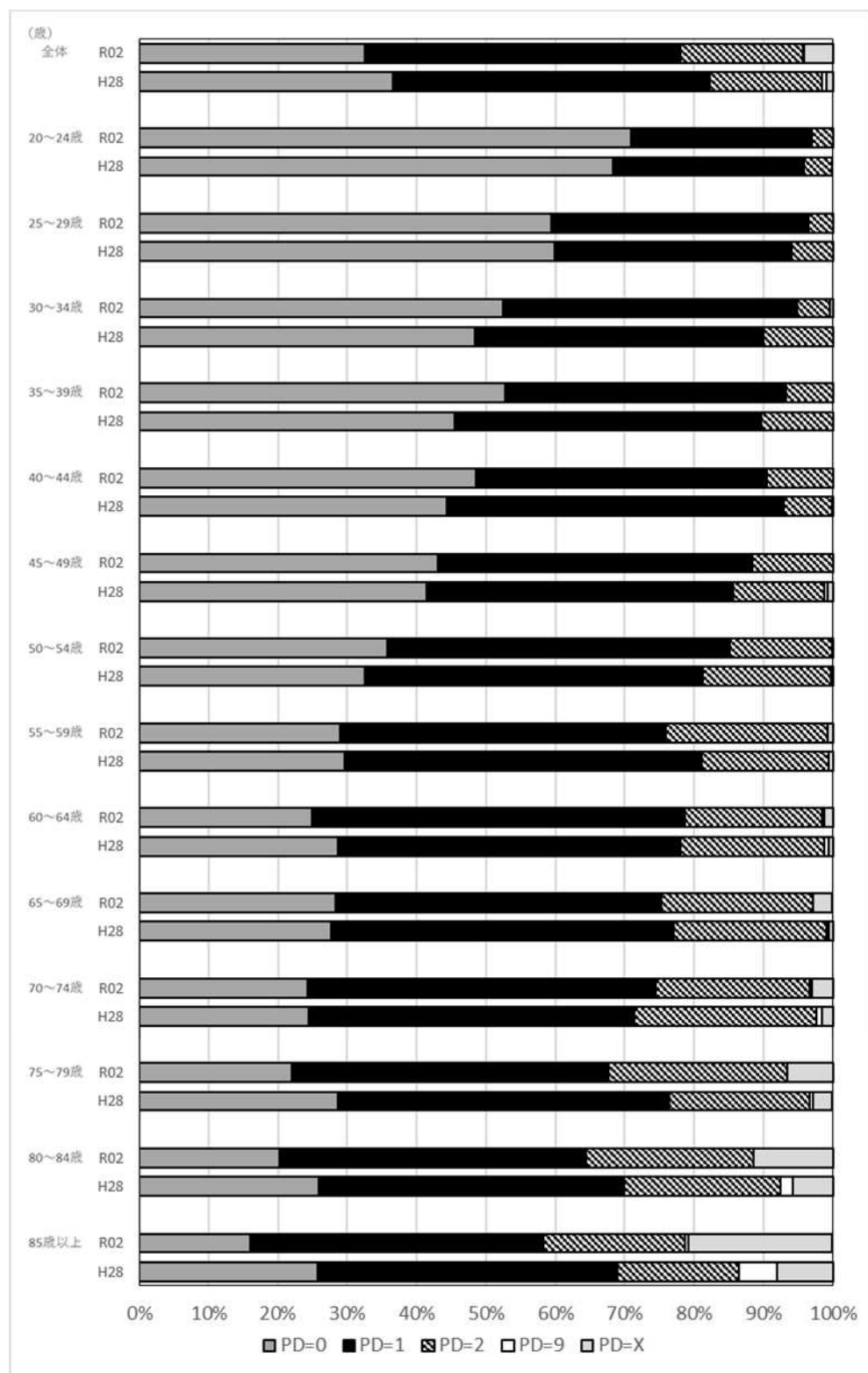
\*H28 調査との比較のため、不明を除いて集計

表Ⅱ-3-(3)-ア-4 PD(歯周ポケット)コード (H28 調査との比較)

年齢	調査年度	PD(歯周ポケット)コード				
		0	1	2	9	X
20～24 歳	R02	70.9%	26.0%	3.1%	0.0%	0.0%
	H28	68.3%	27.5%	4.1%	0.0%	0.0%
25～29 歳	R02	59.4%	37.1%	3.6%	0.0%	0.0%
	H28	59.9%	34.1%	6.0%	0.0%	0.0%
30～34 歳	R02	52.4%	42.5%	4.7%	0.0%	0.5%
	H28	48.4%	41.6%	10.0%	0.0%	0.0%
35～39 歳	R02	52.8%	40.4%	6.8%	0.0%	0.0%
	H28	45.5%	44.1%	10.4%	0.0%	0.0%
40～44 歳	R02	48.6%	41.9%	9.6%	0.0%	0.0%
	H28	44.3%	48.6%	6.9%	0.3%	0.0%
45～49 歳	R02	43.1%	45.3%	11.6%	0.0%	0.0%
	H28	41.4%	44.3%	13.1%	0.5%	0.7%
50～54 歳	R02	35.7%	49.4%	14.8%	0.0%	0.2%
	H28	32.6%	48.7%	18.4%	0.0%	0.3%
55～59 歳	R02	28.9%	47.0%	23.4%	0.0%	0.7%
	H28	29.6%	51.5%	18.3%	0.6%	0.0%
60～64 歳	R02	24.9%	53.8%	19.8%	0.2%	1.3%
	H28	28.6%	49.4%	20.8%	0.6%	0.6%
65～69 歳	R02	28.3%	47.0%	21.9%	0.0%	2.7%
	H28	27.7%	49.4%	21.9%	0.4%	0.6%
70～74 歳	R02	24.3%	50.1%	22.3%	0.2%	3.2%
	H28	24.4%	47.0%	26.2%	0.9%	1.6%
75～79 歳	R02	22.0%	45.6%	25.8%	0.0%	6.6%
	H28	28.6%	47.8%	20.3%	0.5%	2.7%
80～84 歳	R02	20.2%	44.2%	24.1%	0.0%	11.5%
	H28	25.9%	44.1%	22.4%	1.8%	5.9%
85 歳以上	R02	16.0%	42.3%	20.4%	0.4%	20.8%
	H28	25.7%	43.2%	17.6%	5.4%	8.1%
全体	R02	32.6%	45.4%	17.7%	0.1%	4.2%
	H28	36.6%	45.7%	16.2%	0.5%	1.0%

\*H28 調査との比較のため、不明を除いて集計

図Ⅱ-3-(3)-ア-4 PD(歯周ポケット)コード (H28 調査との比較)



\*H28 調査との比較のため、不明を除いて集計

## イ 歯石の付着状況

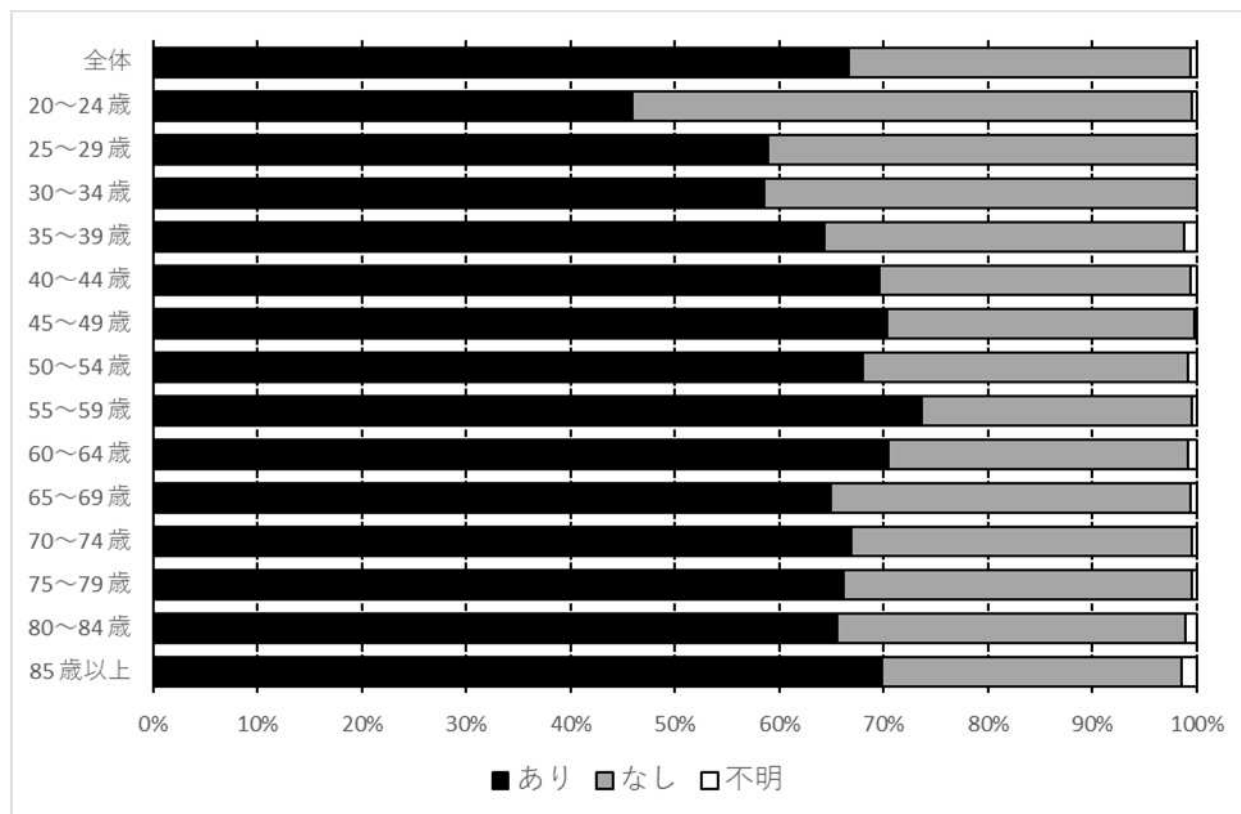
歯石の付着については、20～24歳で45.9%であったものの、25～29歳で58.9%と増加し、40歳以上では70%前後で推移した（表Ⅱ-3-(3)-ア-2、図Ⅱ-3-(3)-ア-3）。

H28調査との比較では、全体ではR02調査の方が悪い結果であった。

表Ⅱ-3-(3)-イ-1 歯周組織の状況（歯石の付着）

年齢	歯石の付着		年齢	歯石の付着	
	あり(人)	(%)		あり(人)	(%)
20～24歳	90	45.9%	55～59歳	335	73.6%
25～29歳	116	58.9%	60～64歳	334	70.3%
30～34歳	124	58.5%	65～69歳	332	64.5%
35～39歳	162	64.3%	70～74歳	430	65.8%
40～44歳	249	69.6%	75～79歳	388	64.0%
45～49歳	320	70.3%	80～84歳	297	60.2%
50～54歳	322	67.9%	85歳以上	297	58.9%
			全体	3,796	64.9%

図Ⅱ-3-(3)-イ-1 歯石の付着

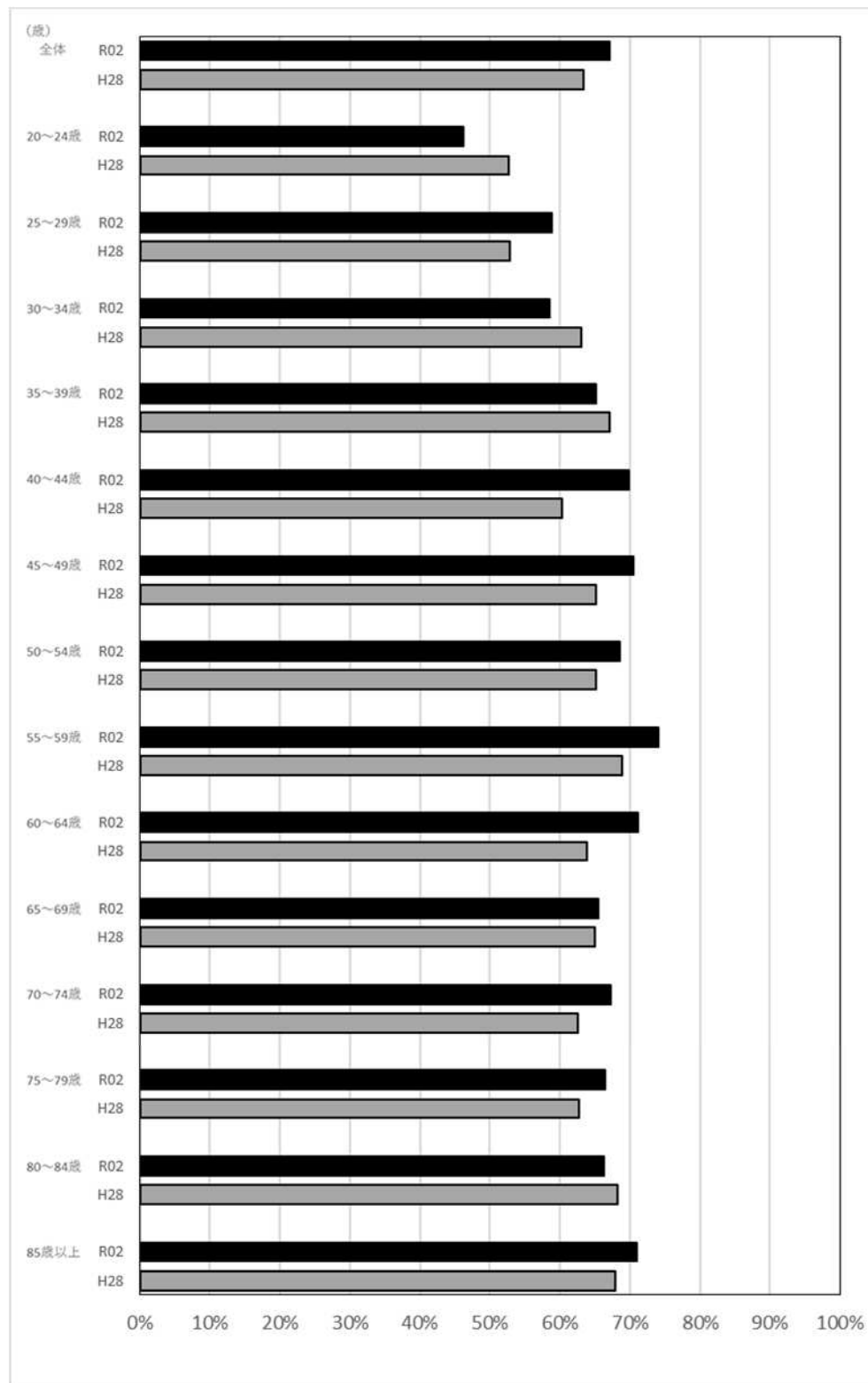


表Ⅱ-3-(3)-イ-2 歯石の付着（H28調査との比較）

年齢	調査年度	歯石の付着
20～24歳	R02	46.2%
	H28	52.7%
25～29歳	R02	58.9%
	H28	52.9%
30～34歳	R02	58.5%
	H28	63.1%
35～39歳	R02	65.1%
	H28	67.1%
40～44歳	R02	69.9%
	H28	60.3%
45～49歳	R02	70.5%
	H28	65.1%
50～54歳	R02	68.5%
	H28	65.1%
55～59歳	R02	74.0%
	H28	68.9%
60～64歳	R02	71.1%
	H28	63.8%
65～69歳	R02	65.4%
	H28	65.0%
70～74歳	R02	67.2%
	H28	62.5%
75～79歳	R02	66.4%
	H28	62.7%
80～84歳	R02	66.3%
	H28	68.2%
85歳以上	R02	70.9%
	H28	67.9%
全体	R02	67.1%
	H28	63.4%

\*H28調査との比較のため、不明を除いて集計

図Ⅱ-3-(3)-イ-2 歯石の付着ありの者の割合（H28調査との比較）



\*H28調査との比較のため、不明を除いて集計



## ウ 口腔清掃状態

口腔清掃状態の評価はCPIにおける被検歯の歯面を、以下のコードで評価し、対象となる10歯面を各コードの歯数で評価した。

コード0：プラークや他の付着物がない

コード1：プラークが歯面の1/3以下

コード2：プラークが歯面の1/3～2/3

コード3：プラークが歯面2/3以上

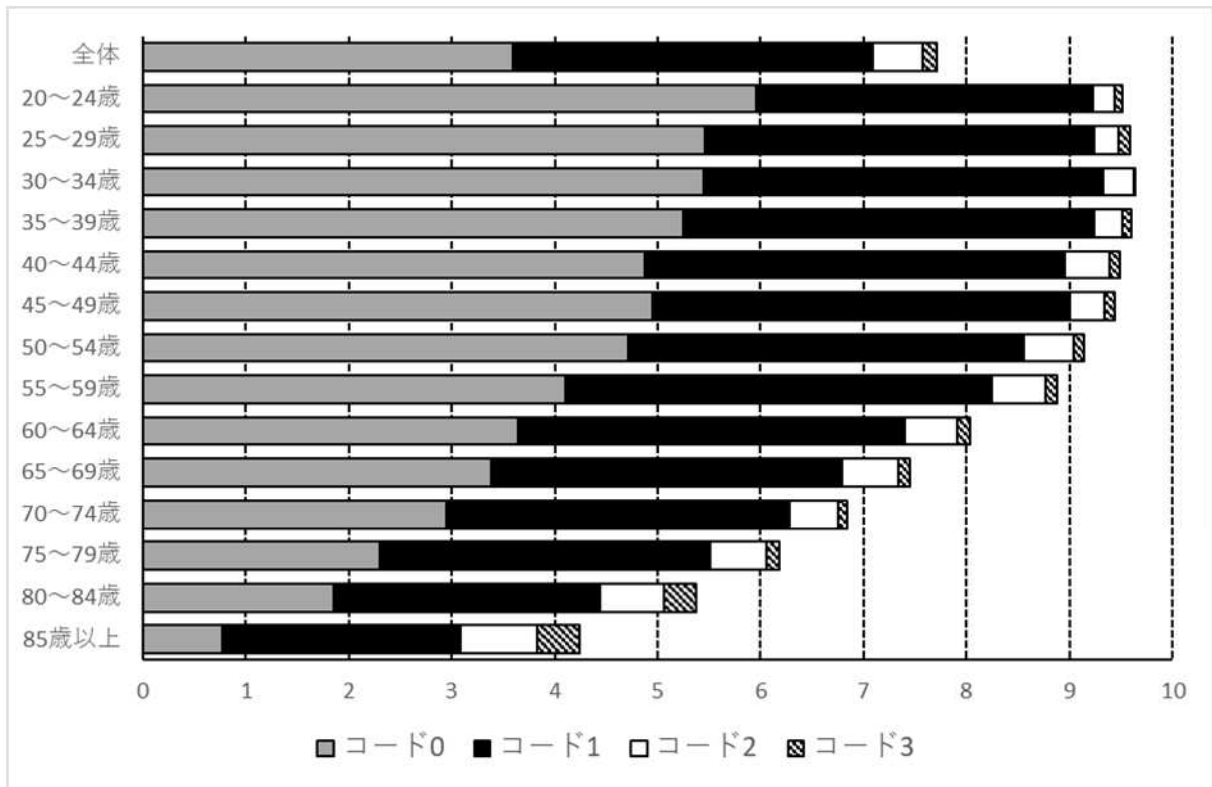
年齢が上がるにつれてプラークや他の付着物がない「コード0」の歯数が減少していたことから、年齢が上がるにつれて口腔清掃状態の悪化がうかがえた。特に「コード2」は85歳以上で0.8本と多くなり、「コード3」も85歳以上で0.4本と増加した。通院患者と訪問患者で比較すると、総じて訪問患者の方が口腔清掃状態は悪い結果であった（表Ⅱ-3-(3)-イ-1、図Ⅱ-3-(3)-イ-1）。

H28調査との比較では、「コード0」の歯数がR02調査の方が少なく、口腔衛生状態が悪化したことが示された。

表Ⅱ-3-(3)-ウ-1 口腔清掃状態

	1人平均口腔清掃状態(歯数(本)/人)コード			
	0	1	2	3
20～24歳	6.0	3.3	0.2	0.1
25～29歳	5.5	3.8	0.2	0.1
30～34歳	5.5	3.9	0.3	0.0
35～39歳	5.2	4.0	0.3	0.1
40～44歳	4.9	4.1	0.4	0.1
45～49歳	5.0	4.0	0.3	0.1
50～54歳	4.7	3.8	0.5	0.1
55～59歳	4.1	4.1	0.5	0.1
60～64歳	3.6	3.8	0.5	0.1
65～69歳	3.4	3.4	0.6	0.1
70～74歳	3.0	3.3	0.5	0.1
75～79歳	2.3	3.2	0.6	0.1
80～84歳	1.9	2.6	0.6	0.3
85歳以上	0.8	2.3	0.8	0.4
全体	3.6	3.5	0.5	0.1
通院	3.9	3.6	0.4	0.1
訪問	1.8	2.7	0.8	0.4

図Ⅱ-3-(3)-ウ-1 口腔清掃状態



表Ⅱ-3-(3)-ウ-2 口腔清掃状態 (H28 調査との比較)

	調査年度	1人平均口腔清掃状態(歯数(本)/人)コード			
		0	1	2	3
20～24 歳	R02	6.0	3.3	0.2	0.1
	H28	7.0	4.6	0.5	0.1
25～29 歳	R02	5.5	3.8	0.2	0.1
	H28	7.2	4.0	0.7	0.1
30～34 歳	R02	5.5	3.9	0.3	0.0
	H28	6.6	4.3	0.6	0.2
35～39 歳	R02	5.2	4.0	0.3	0.1
	H28	5.9	4.8	0.7	0.1
40～44 歳	R02	4.9	4.1	0.4	0.1
	H28	6.3	4.7	0.7	0.1
45～49 歳	R02	5.0	4.0	0.3	0.1
	H28	6.2	4.3	0.6	0.2
50～54 歳	R02	4.7	3.8	0.5	0.1
	H28	5.9	4.9	0.5	0.1
55～59 歳	R02	4.1	4.1	0.5	0.1
	H28	5.1	4.4	0.6	0.1
60～64 歳	R02	3.6	3.8	0.5	0.1
	H28	4.8	4.4	0.7	0.2
65～69 歳	R02	3.4	3.4	0.6	0.1
	H28	3.8	4.1	0.6	0.2
70～74 歳	R02	3.0	3.3	0.5	0.1
	H28	3.6	3.7	0.5	0.2
75～79 歳	R02	2.3	3.2	0.6	0.1
	H28	3.2	4.3	0.6	0.2
80～84 歳	R02	1.9	2.6	0.6	0.3
	H28	2.6	3.4	0.9	0.3
85 歳以上	R02	0.8	2.3	0.8	0.4
	H28	2.2	4.0	0.9	0.5
全体	R02	3.6	3.5	0.5	0.1
	H28	5.1	4.3	0.6	0.2

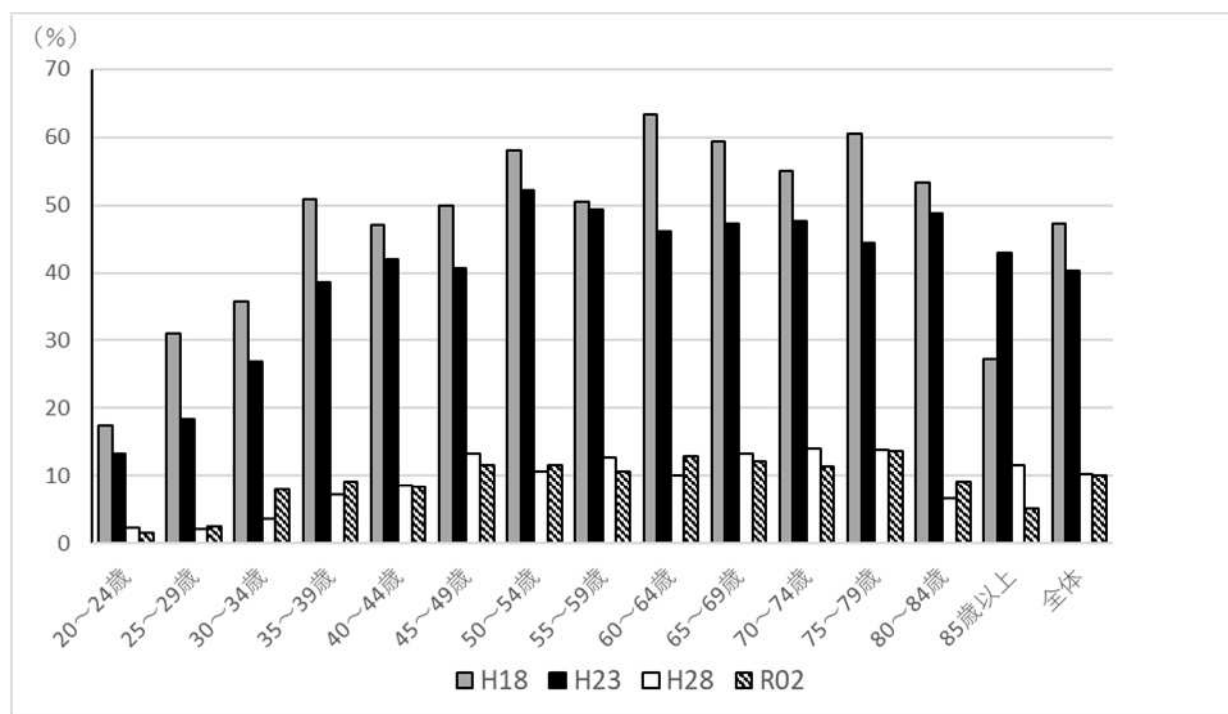
(4) 歯頸部の状況（くさび状欠損を有する者の割合、1人平均くさび状欠損歯数）

R02 調査では、くさび状欠損を有する者の割合は全体で 10.0% であり、H28 調査からさらに減少した。訪問では 5.0% とさらに少ない結果であった。（表 II-3-(4)-1、図 II-3-(4)-1、2）。また、1人平均くさび状欠損歯数は、H28 調査と同じく 0.3 本であり、H23 調査の 1.6 本及び H18 調査の 2.1 本と比較して減少した（表 II-3-(4)-2、図 II-3-(4)-3）。くさび状欠損の発生機序は完全には解明されていないが、歯周病による歯肉退縮で生じる歯根面の露出が関与しているといわれていることから、若年層には少ない。一方で、45 歳以上で 10% 以上と増加しているが、80 歳以上では減少していた。

表 II-3-(4)-1 くさび状欠損を有する者の割合（H18・H23・H28 調査との比較）

年齢	調査年度	有病歯率 (%)	年齢	調査年度	有病歯率 (%)	年齢	調査年度	有病歯率 (%)
20～ 24 歳	R02	1.5	45～ 49 歳	R02	11.6	70～ 74 歳	R02	11.5
	H28	2.3		H28	13.3		H28	14.0
	H23	13.3		H23	40.7		H23	47.6
	H18	17.4		H18	50.0		H18	55.0
25～ 29 歳	R02	2.5	50～ 54 歳	R02	11.6	75～ 79 歳	R02	13.7
	H28	2.2		H28	10.6		H28	13.9
	H23	18.4		H23	52.1		H23	44.4
	H18	31.0		H18	58.1		H18	60.4
30～ 34 歳	R02	8.0	55～ 59 歳	R02	10.5	80～ 84 歳	R02	9.1
	H28	3.6		H28	12.7		H28	6.7
	H23	26.9		H23	49.3		H23	48.8
	H18	35.8		H18	50.5		H18	53.4
35～ 39 歳	R02	9.1	60～ 64 歳	R02	12.8	85 歳 以上	R02	5.2
	H28	7.3		H28	10.0		H28	11.5
	H23	38.5		H23	46.2		H23	42.9
	H18	50.9		H18	63.3		H18	27.3
40～ 44 歳	R02	8.4	65～ 69 歳	R02	12.2	全体	R02	10.0
	H28	8.5		H28	13.3		R02 通院	10.8
	H23	42.0		H23	47.2		R02 訪問	5.0
	H18	47.1		H18	59.3		H28	10.2
					H23		40.2	
					H18		47.2	

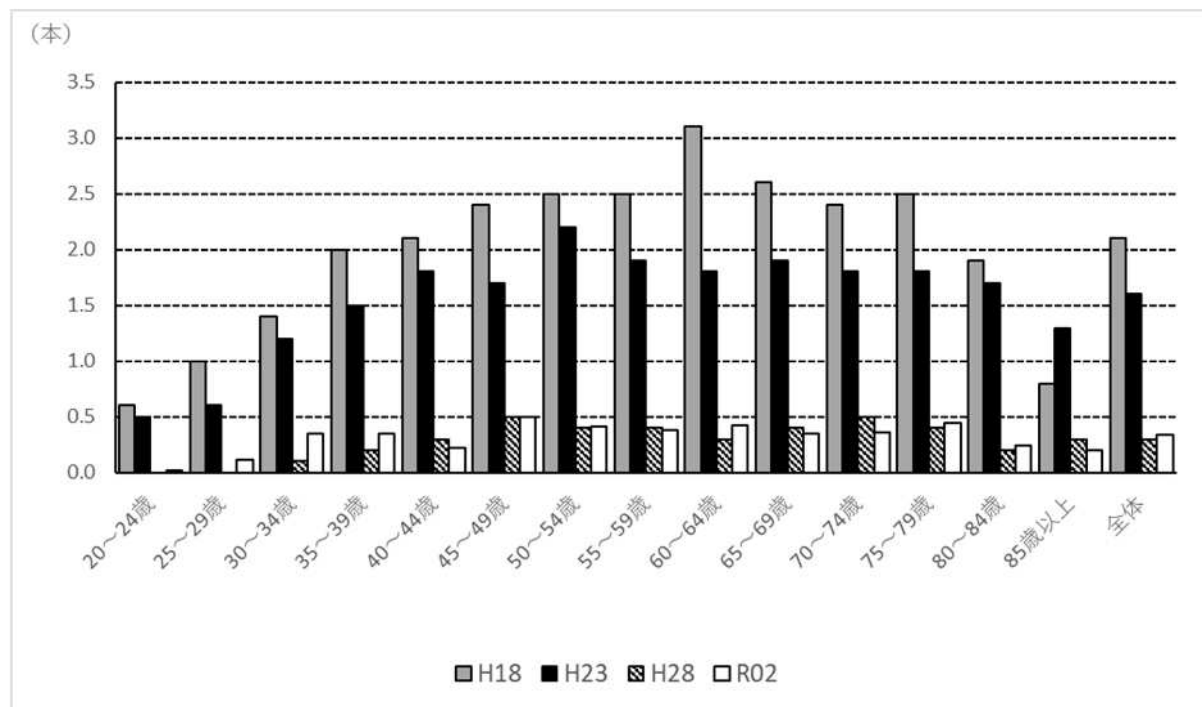
図Ⅱ-3-(4)-1 くさび状欠損を有する者の割合（H18・H23・H28 調査との比較）



表Ⅱ-3-(4)-2 1人平均くさび状欠損歯数（H18・H23・H28 調査との比較）

年齢 (R02 母数)	調査年度	歯数(本) [R02 計]	年齢 (R02 母数)	調査年度	歯数(本) [R02 計]	年齢 (R02 母数)	調査年度	歯数(本) [R02 計]
20~24歳 (196)	R02	0.0 [4]	45~49歳 (455)	R02	0.5 [226]	70~74歳 (653)	R02	0.4 [232]
	H28	0.0		H28	0.5		H28	0.5
	H23	0.5		H23	1.7		H23	1.8
	H18	0.6		H18	2.4		H18	2.4
25~29歳 (197)	R02	0.1 [23]	50~54歳 (474)	R02	0.4 [195]	75~79歳 (606)	R02	0.4 [266]
	H28	0.0		H28	0.4		H28	0.4
	H23	0.6		H23	2.2		H23	1.8
	H18	1.0		H18	2.5		H18	2.5
30~34歳 (212)	R02	0.3 [74]	55~59歳 (455)	R02	0.4 [172]	80~84歳 (493)	R02	0.2 [118]
	H28	0.1		H28	0.4		H28	0.2
	H23	1.2		H23	1.9		H23	1.7
	H18	1.4		H18	2.5		H18	1.9
35~39歳 (252)	R02	0.4 [89]	60~64歳 (475)	R02	0.4 [202]	85歳以上 (504)	R02	0.2 [103]
	H28	0.2		H28	0.3		H28	0.3
	H23	1.5		H23	1.8		H23	1.3
	H18	2.0		H18	3.1		H18	0.8
40~44歳 (358)	R02	0.2 [78]	65~69歳 (515)	R02	0.4 [180]	全体 (5,845) (通院 5,051) (訪問 794)	R02	0.3 [1,962]
	H28	0.3		H28	0.4		R02 通院	0.4 [1,835]
	H23	1.8		H23	1.9		R02 訪問	0.2 [127]
	H18	2.1		H18	2.6		H28	0.3
							H23	1.6
							H18	2.1

図Ⅱ-3-(4)-3 1人平均くさび状欠損歯数（H18・H23・H28 調査との比較）



#### 4 全国（平成 28 年度歯科疾患実態調査）と神奈川県との比較

神奈川県における歯科疾患の特徴について、平成 28 年度歯科疾患実態調査（以下、H28 歯科疾患実態調査）結果との比較を行った。45～59 歳と、特に 70 歳以上の被調査者数が全国より多い点に注意が必要である。

##### （1）現在歯の状況

###### ア 神奈川県における 1 人平均現在歯数とその内訳の特徴

H28 歯科疾患実態調査における全国の 1 人平均現在歯数は 22.9 本（男性 22.3 本、女性 23.3 本）であるのに対し、神奈川県における R02 調査の結果では 23.0 本（男性 23.0 本、女性 23.0 本）であった。本県は全国とほぼ同程度の結果であった（表Ⅱ-4-(1)-ア-1、図Ⅱ-4-(1)-ア-1）。

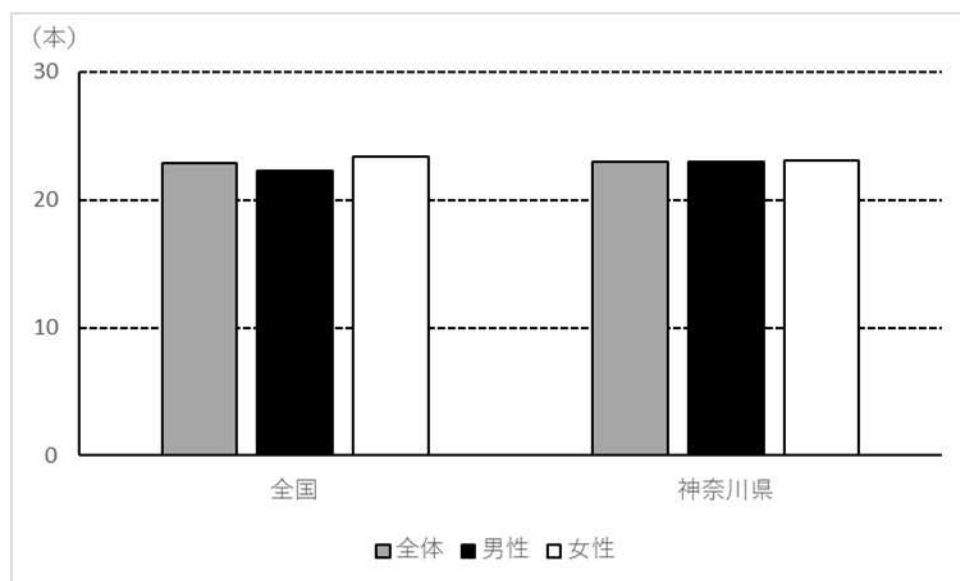
神奈川県における 1 人平均現在歯数の内訳（健全歯、処置歯、未処置歯）を全国と比較すると、未処置歯数は 20～24 歳、30～34 歳、40～44 歳及び 85 歳以上の 4 階級でやや多いが、45 歳以上では少なくなる傾向であった。85 歳以上で多い理由は、被調査者数が多く、訪問患者の比率も高いためと考えられる。処置歯数は概ね全年齢階級で全国より多い傾向であった（表Ⅱ-4-(1)-ア-2、図Ⅱ-4-(1)-ア-2、3、4、5）。

全国、神奈川県ともに、年齢階級が上がるにつれて、1 人平均健全歯数は減少し、神奈川県では 40 歳以降の処置歯数の割合が高かった（表Ⅱ-4-(1)-ア-3、図Ⅱ-4-(1)-ア-6）。

表Ⅱ-4-(1)-ア-1 神奈川県における 1 人平均現在歯数（H28 歯科疾患実態調査との比較）

	1人平均現在歯数(本)		
	全国	神奈川県	県 対全国比
全体	22.9	23.0	100.6%
男性	22.3	23.0	103.3%
女性	23.3	23.0	98.6%

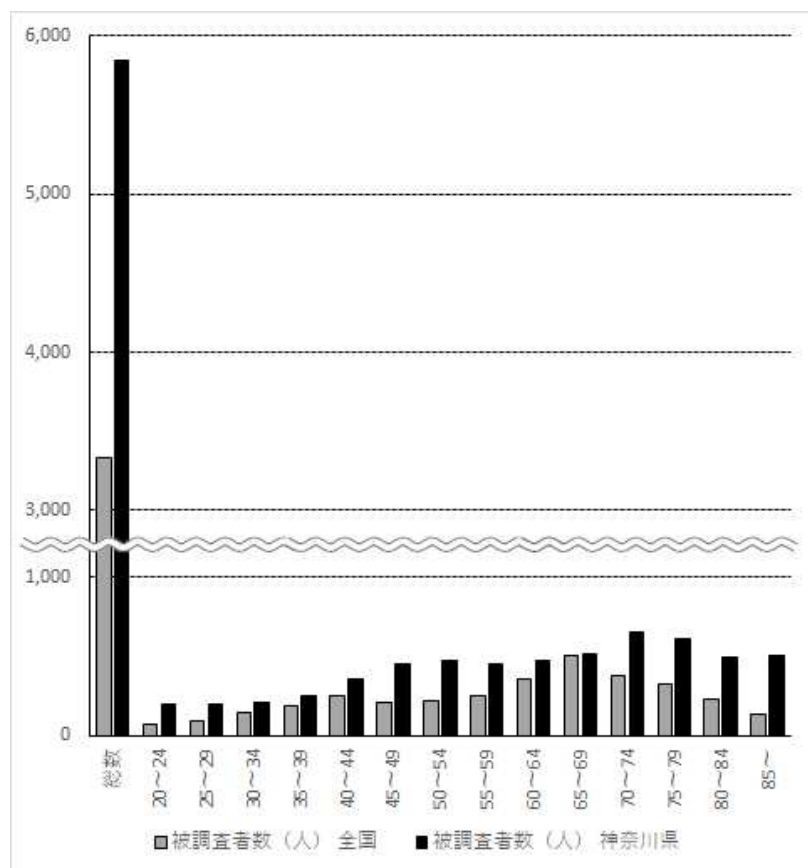
図Ⅱ-4-(1)-ア-1 神奈川県における 1 人平均現在歯数（H28 歯科疾患実態調査との比較）



表Ⅱ-4-(1)-ア-2 神奈川県における現在歯数の内訳（H28 歯科疾患実態調査との比較）

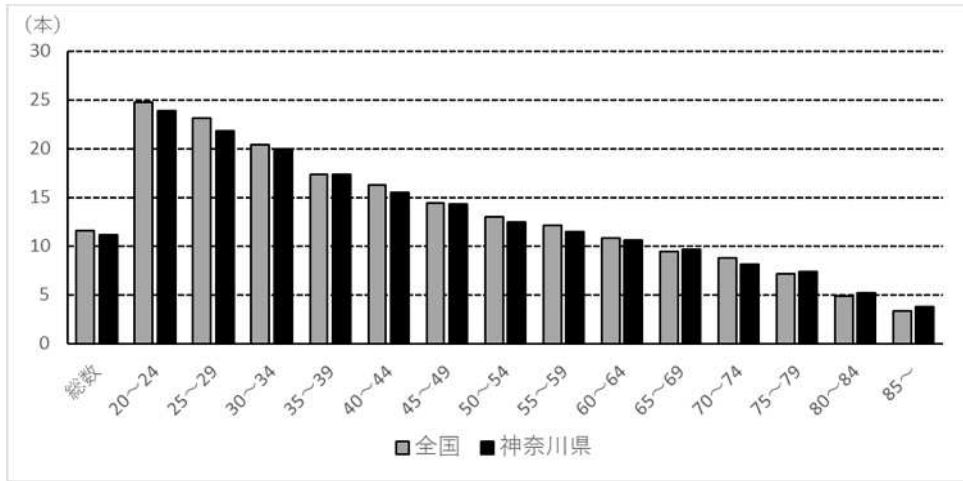
	被調査者数(人)		健全歯(本/人)		処置歯(本/人)		未処置歯(本/人)	
	全国	神奈川県	全国	神奈川県	全国	神奈川県	全国	神奈川県
20～24 歳	70	196	24.7	23.9	3.2	3.4	0.8	1.2
25～29 歳	86	197	23.1	21.9	4.8	5.5	0.9	0.8
30～34 歳	139	212	20.4	20.0	7.3	7.2	0.9	1.0
35～39 歳	190	252	17.4	17.4	10.2	9.7	1.0	0.7
40～44 歳	254	358	16.2	15.6	10.9	11.4	0.8	0.9
45～49 歳	202	455	14.4	14.4	12.3	12.4	0.8	0.7
50～54 歳	221	474	13.0	12.5	12.7	13.5	0.7	0.6
55～59 歳	254	455	12.1	11.5	12.4	13.7	0.8	0.7
60～64 歳	351	475	10.9	10.7	12.3	13.1	0.7	0.6
65～69 歳	503	515	9.5	9.7	11.3	12.8	0.8	0.6
70～74 歳	380	653	8.8	8.2	10.0	12.4	1.0	0.7
75～79 歳	319	606	7.1	7.4	10.0	11.0	0.9	0.6
80～84 歳	224	493	4.9	5.2	9.6	10.4	0.8	0.8
85 歳～	136	504	3.4	3.8	6.5	8.0	0.8	1.3
全体	3,329	5,845	11.6	11.2	10.5	11.1	0.8	0.8

図Ⅱ-4-(1)-ア-2 神奈川県における現在歯数の内訳（H28 歯科疾患実態調査との比較）：被調査者数

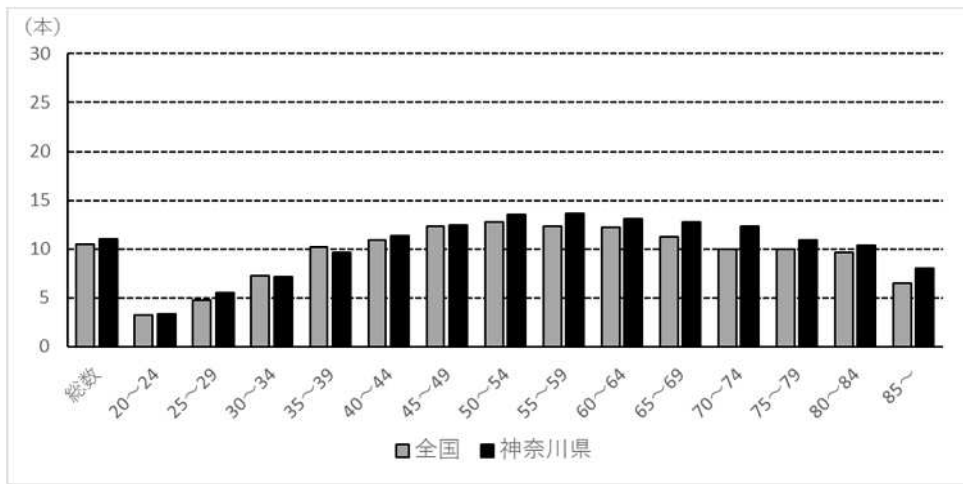




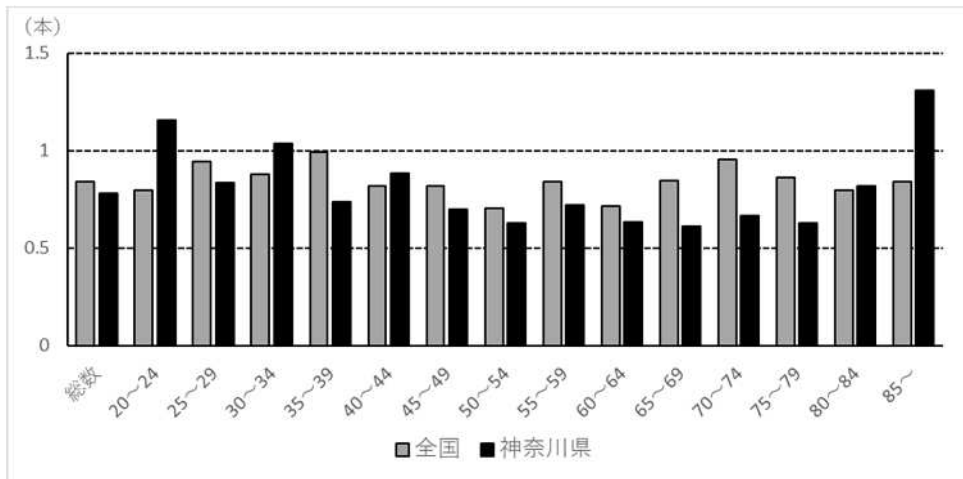
図Ⅱ-4-(1)-ア-3 神奈川県における現在歯数の内訳（H28 歯科疾患実態調査との比較）：健全歯



図Ⅱ-4-(1)-ア-4 神奈川県における現在歯数の内訳（H28 歯科疾患実態調査との比較）：処置歯



図Ⅱ-4-(1)-ア-5 神奈川県における現在歯数の内訳（H28 歯科疾患実態調査との比較）：未処置歯

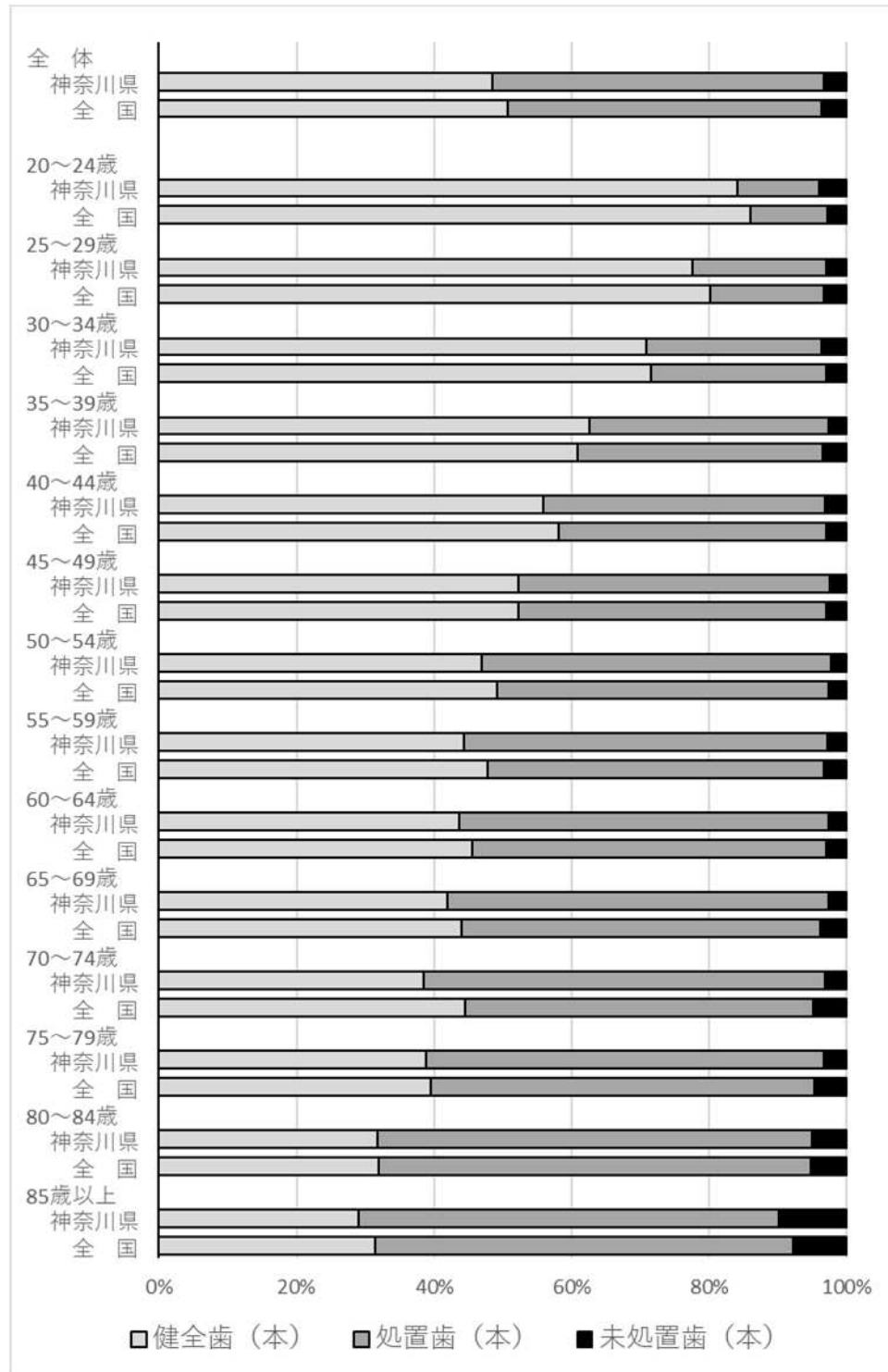


表Ⅱ-4-(1)-ア-3 健全歯、処置歯、未処置歯の割合（H28 歯科疾患実態調査との比較）

	健全歯		処置歯		未処置歯	
	全国	神奈川県	全国	神奈川県	全国	神奈川県
20～24 歳	86.0%	84.1%	11.2%	11.9%	2.8%	4.1%
25～29 歳	80.2%	77.6%	16.6%	19.5%	3.3%	3.0%
30～34 歳	71.5%	70.9%	25.5%	25.4%	3.1%	3.7%
35～39 歳	60.8%	62.5%	35.7%	34.8%	3.5%	2.7%
40～44 歳	58.0%	55.9%	39.0%	40.9%	2.9%	3.2%
45～49 歳	52.3%	52.3%	44.7%	45.2%	3.0%	2.5%
50～54 歳	49.1%	46.8%	48.2%	50.8%	2.7%	2.4%
55～59 歳	47.8%	44.4%	48.9%	52.8%	3.3%	2.8%
60～64 歳	45.5%	43.7%	51.5%	53.7%	3.0%	2.6%
65～69 歳	43.9%	41.9%	52.2%	55.4%	3.9%	2.6%
70～74 歳	44.5%	38.5%	50.7%	58.4%	4.8%	3.1%
75～79 歳	39.5%	38.8%	55.7%	57.9%	4.8%	3.3%
80～84 歳	31.9%	31.8%	62.8%	63.2%	5.2%	5.0%
85 歳以上	31.5%	29.1%	60.7%	60.9%	7.8%	10.0%
全体	53.9%	48.5%	48.7%	48.2%	3.9%	3.4%

\*例として健全歯の数値は、四捨五入前の数値(健全歯)／(健全歯+処置歯+未処置歯)×100 で得られた数値を小数点第2位を四捨五入して表記。

図Ⅱ-4-(1)-ア-6 神奈川県における健全歯、処置歯、未処置歯の割合（H28 歯科疾患実態調査との比較）



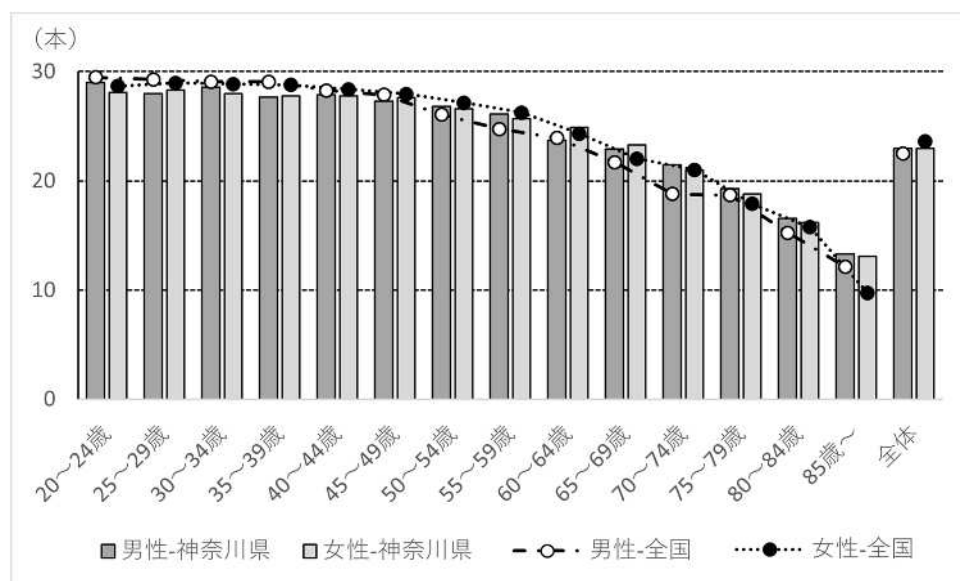
## イ 神奈川県における男女別1人平均現在歯数の特徴

神奈川県における男女別の1人平均現在歯数は、若い世代で本県の方が若干少なく、男性では50歳以降、女性では60歳以降で全国よりやや多い傾向であり、全体でみるとほぼ同程度の歯数であった（表Ⅱ-4-(1)-イ-1、図Ⅱ-4-(1)-イ-1）。

表Ⅱ-4-(1)-イ-1 神奈川県における男女別1人平均現在歯数の特徴（H28 歯科疾患実態調査との比較）

年齢	1人平均現在歯数(本)			
	全国		神奈川県	
	男性	女性	男性	女性
20～24歳	29.2	28.3	29.0	28.1
25～29歳	29.0	28.6	28.0	28.3
30～34歳	28.8	28.5	28.6	28.0
35～39歳	28.8	28.4	27.7	27.8
40～44歳	28.0	28.0	27.9	27.8
45～49歳	27.6	27.6	27.3	27.6
50～54歳	25.8	26.8	26.8	26.6
55～59歳	24.5	25.9	26.1	25.7
60～64歳	23.7	24.0	23.7	24.9
65～69歳	21.5	21.7	22.9	23.3
70～74歳	18.6	20.7	21.5	21.0
75～79歳	18.5	17.6	19.3	18.8
80～84歳	15.1	15.5	16.6	16.2
85歳～	12.0	9.5	13.3	13.1
全体	22.3	23.3	23.0	23.0

図Ⅱ-4-(1)-イ-1 神奈川県における男女別1人平均現在歯数の特徴（H28 歯科疾患実態調査との比較）



## 5 神奈川県における男女別集計比較

神奈川県における口腔内状況ならびに歯科疾患の、男女別による特徴を比較した。

### (1) 健全歯、処置歯、未処置歯の1人平均歯数の男女別推移

現在歯の状況について男女別による現在歯数の年齢階級ごとの推移を比較した（表Ⅱ-5-(1)-1、図Ⅱ-5-(1)-1-ア-1、イ-1、ウ-1）。

#### ア 健全歯

各年齢階級において、概ね1人平均健全歯数に男女別による有意な差はみられないが、20～24歳、50～54歳、55～59歳、70～74歳及び75～79歳の5つの階級においては女性が有意に少ない値であった。すなわち女性では男性と比較し60歳、80歳をむかえる前の段階でやや早期に健全歯が減少する可能性が示唆された。全年齢においても男性の方が、有意に健全歯数は多かった。

#### イ 処置歯

全年齢において女性の方が処置歯数は有意に多く、特に40～74歳で多い傾向であった。

#### ウ 未処置歯

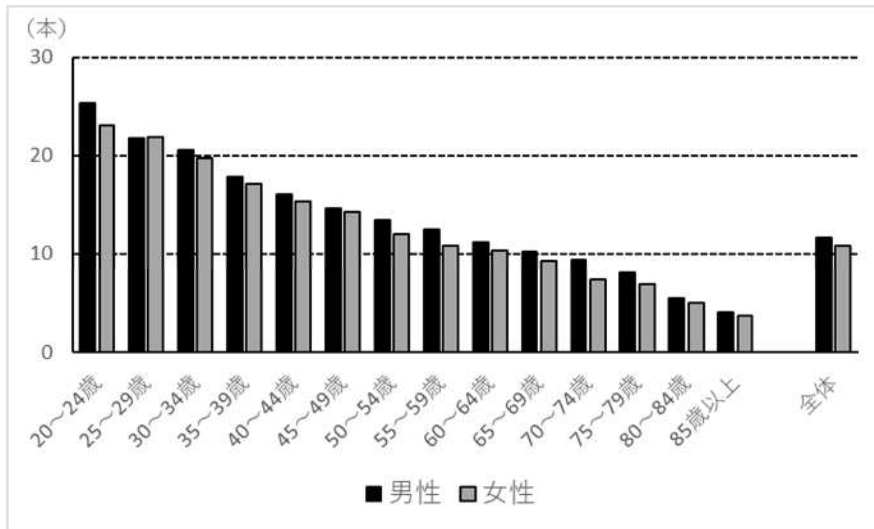
全年齢において男性の方が未処置歯数は有意に多く、概ね全年齢階級で多かったが、年齢階級別でみると、40～44歳でのみ有意差が認められた。

表Ⅱ-5-(1)-1 健全歯、処置歯、未処置歯の1人平均歯数の男女別推移の比較

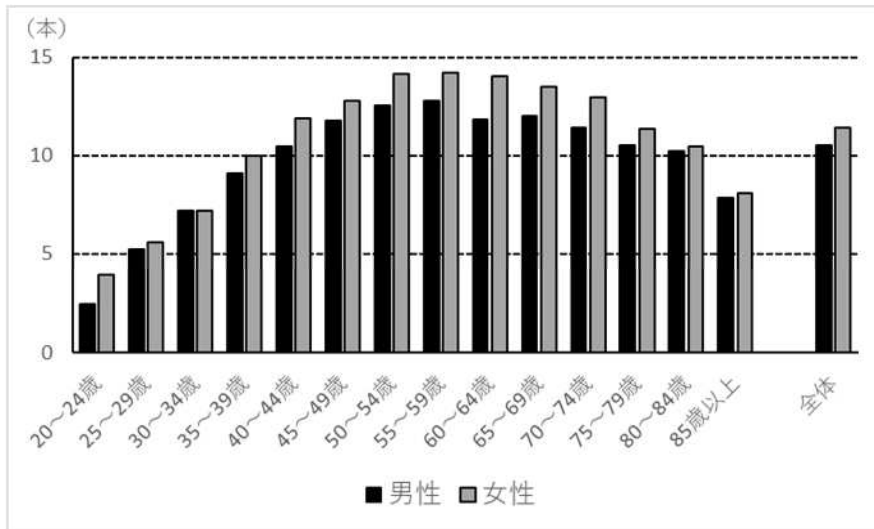
年齢	健全歯数			処置歯数			未処置歯数		
	男性	女性	P値	男性	女性	P値	男性	女性	P値
20～24歳	25.4	23.0	0.002 *	2.4	3.9	0.010 *	1.2	1.1	0.874
25～29歳	21.8	21.9	0.871	5.2	5.6	0.626	1.0	0.8	0.580
30～34歳	20.6	19.7	0.313	7.2	7.2	0.992	0.8	1.2	0.246
35～39歳	17.9	17.1	0.426	9.1	10.0	0.282	0.8	0.7	0.660
40～44歳	16.0	15.3	0.328	10.4	11.9	0.034 *	1.4	0.6	0.009 *
45～49歳	14.6	14.2	0.548	11.8	12.8	0.088	0.9	0.6	0.186
50～54歳	13.4	12.0	0.026 *	12.5	14.1	0.003 *	0.8	0.5	0.131
55～59歳	12.4	10.9	0.006 *	12.8	14.2	0.010 *	0.9	0.6	0.317
60～64歳	11.1	10.3	0.181	11.8	14.0	<0.001 *	0.7	0.6	0.494
65～69歳	10.3	9.2	0.070	12.0	13.5	0.004 *	0.7	0.6	0.445
70～74歳	9.3	7.4	<0.001 *	11.4	13.0	0.001 *	0.7	0.7	0.846
75～79歳	8.1	6.9	0.024 *	10.5	11.3	0.108	0.7	0.6	0.416
80～84歳	5.5	5.0	0.338	10.2	10.4	0.757	0.9	0.8	0.633
85歳～	4.1	3.7	0.463	7.8	8.1	0.692	1.4	1.3	0.781
全体	11.7	10.8	<0.001 *	10.5	11.4	<0.001 *	0.9	0.7	0.015 *

\*: P<0.05である場合、男女間に有意な差が見られる。等分散の場合t検定を、不等分散の場合Welchのt検定を行った。

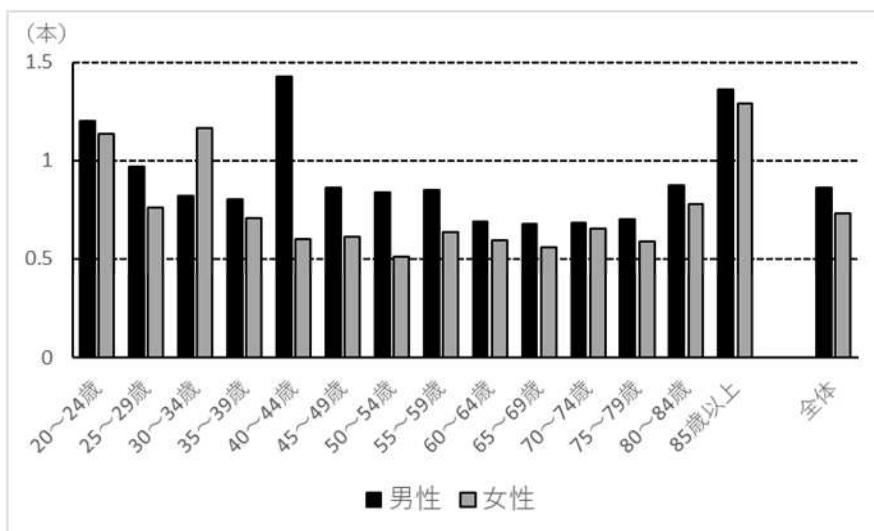
図Ⅱ-5-(1)-1-ア-1 1人平均健全歯数の男女別推移の比較



図Ⅱ-5-(1)-1-イ-1 1人平均処置歯数の男女別推移の比較



図Ⅱ-5-(1)-1-ウ-1 1人平均未処置歯数の男女別推移の比較



## (2) 1人平均喪失歯数の男女別推移

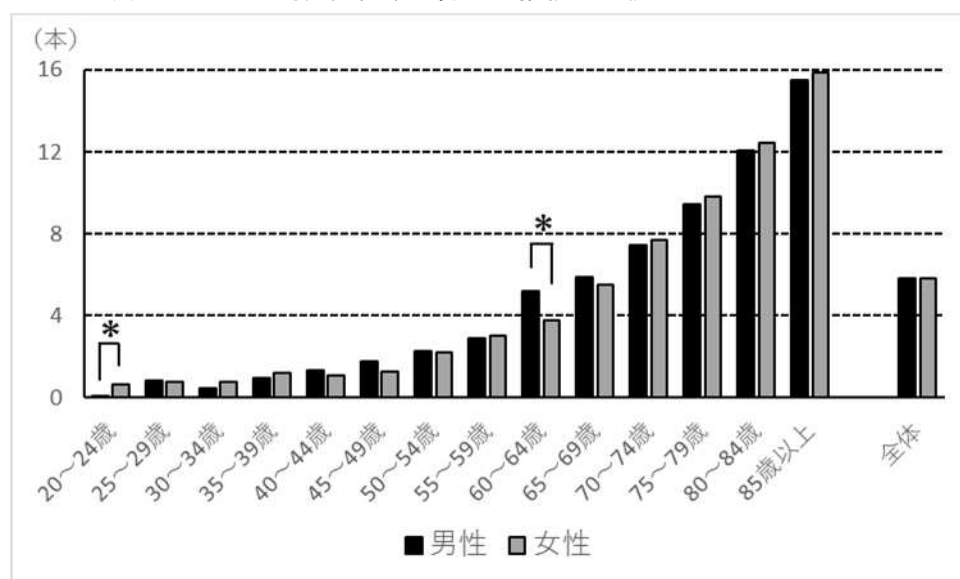
20～24歳と60～64歳でのみ有意差を認めたものの、ほとんどの年齢階級で1人平均喪失歯数における男女差は認められなかった。全年齢でも、男女で喪失歯数に差はなかった(表Ⅱ-5-(2)-1、図Ⅱ-5-(2)-1)。

表Ⅱ-5-(2)-1 1人平均喪失歯数の男女別推移の比較

喪失歯数							
年齢	男性	女性	P値	年齢	男性	女性	P値
20～24歳	0.0	0.7	P<0.001 *	55～59歳	2.9	3.0	P=0.707
25～29歳	0.8	0.8	P=0.847	60～64歳	5.2	3.8	P=0.007 *
30～34歳	0.5	0.8	P=0.095	65～69歳	5.9	5.5	P=0.501
35～39歳	0.9	1.2	P=0.241	70～74歳	7.5	7.7	P=0.703
40～44歳	1.3	1.1	P=0.421	75～79歳	9.4	9.8	P=0.599
45～49歳	1.8	1.3	P=0.076	80～84歳	12.1	12.4	P=0.633
50～54歳	2.3	2.2	P=0.913	85歳～	15.5	15.9	P=0.655
				全体	5.8	5.8	P=0.808

\*: P<0.05である場合、男女間に有意な差が見られる。等分散の場合 t 検定を、不等分散の場合 Welch の t 検定を行った。

図Ⅱ-5-(2)-1 1人平均喪失歯数の男女別推移の比較



\*: p<0.05である場合、男女間に有意な差が見られる。等分散の場合 t 検定を、不等分散の場合 Welch の t 検定を行った。

### (3) 歯周組織の状況における男女別の推移

歯肉の状況については歯肉出血、歯周ポケットともに、全体的に男性が女性よりも状態が悪い傾向が認められた(表Ⅱ-5-(3)-1、図Ⅱ-5-(3)-1)。

#### ア 歯肉出血の状況 (BOP コード)

40～54歳までの3階級において、男性が有意に歯肉からの出血がある者が多いことが示された。全体でも男性の方が女性より有意に歯肉からの出血がある者が多かった。なお、本項においては、コード値(0:健全、1:出血あり)の平均を示した。

#### イ 歯周ポケットの状況 (PD コード)

69歳までの多くの年齢階級で男性が有意に歯周ポケットを有する者が多かった。全体でも男性の方が女性より有意に歯周ポケットを有していた。なお、本項においては、コード値(0:健全、1:4～5mmのポケット、2:6mm以上のポケット)の平均を示した。

表Ⅱ-5-(3)-1 歯周組織の状況における男女別推移の比較

年齢	BOP(歯肉出血)コード			PD(歯周ポケット)コード		
	男性	女性	P値	男性	女性	P値
20～24歳	0.54	0.39	P=0.052	0.49	0.22	P<0.001 *
25～29歳	0.59	0.49	P=0.190	0.63	0.34	P<0.001 *
30～34歳	0.65	0.56	P=0.199	0.51	0.53	P=0.828
35～39歳	0.63	0.51	P=0.061	0.65	0.49	P=0.063
40～44歳	0.78	0.56	P<0.001 *	0.79	0.52	P<0.001 *
45～49歳	0.69	0.57	P=0.014 *	0.91	0.57	P<0.001 *
50～54歳	0.74	0.60	P=0.003 *	0.90	0.73	P=0.013 *
55～59歳	0.73	0.67	P=0.140	1.06	0.87	P=0.009 *
60～64歳	0.70	0.68	P=0.699	1.00	0.91	P=0.172
65～69歳	0.71	0.65	P=0.119	1.02	0.87	P=0.020 *
70～74歳	0.68	0.70	P=0.666	1.04	0.94	P=0.076
75～79歳	0.71	0.70	P=0.764	1.11	0.99	P=0.060
80～84歳	0.74	0.70	P=0.341	1.10	1.01	P=0.204
85歳～	0.79	0.75	P=0.381	1.08	1.05	P=0.699
全体	0.70	0.63	P<0.001 *	0.95	0.78	P<0.001 *

\*:P<0.05である場合、男女間に有意な差が見られる。BOP(歯肉出血)コードにはPearsonのカイ二乗検定を、PD(歯周ポケット)コードにはMann-WhitneyのU検定を行った。不明を除いて集計した。



図Ⅱ-5-(3)-1 歯周組織の状況における男女別推移の比較

